

行刑施設職員の生活と意識に関する研究（その1）

矯正協会附属中央研究所 廣橋 秀山
 田島 秀紀
 伊藤 嘉明
 横浜少年鑑別所 濱井 郁子*

キーワード：職業、健康状態、余暇、生活一般、不満

1 はじめに

我が国には、戦後経済的に欧米先進諸国に追いつくことを目標として必死に努力してきた経緯がある。現在、あらゆるメディアにおいて日本経済の危機が叫ばれてはいるものの、日常生活場面においては、ある程度の生活水準を維持できるような状況になったと言えよう。この状況においては、各世代の生活に対する志向性は大きく変化し、総じて量的な豊かさよりも、ゆとりのある質的な豊かさを求めるようになってきている。森（1989）は伝統的な労働観・価値観が意味論的には実体がなくなりつつあると捉え、以前は仕事に最優先の価値が置かれ、余暇は仕事に従属するものであったが、生きがいという点になると仕事よりも余暇を選択することになると述べている。

職種により幾分差が見られるが、一般企業が、週休2日制を採用したのと歩調を合わせて、国家公務員の勤務形態は、昭和63年4月から4週6休制が実施されてきた。矯正施設においては、4週6休制の導入に際して、業務の特殊性、各職員の負担増から、その実現が危惧されていたが、実施から10年以上経過した今現在、現場での職員配置等問題点はあるものの、週休2日制は制度として、ある程

度定着しつつあると捉えることができる。

週休2日制について、吉村（1993）は宮崎刑務所での調査を踏まえて、一般職員は地域に密着しながらそれぞれの休暇を有意義に過ごしているとしている。しかし、週休2日制とはいえ、行刑施設職員の勤務については勤務形態が多様であり、第一線で働く職員のストレスは質的・量的にも多いことが予想される。大川他（1997）は男子刑務官を対象に、心身の状況ストレス、ストレス解消のための周囲の支援状況及び勤務意欲についての調査を行っており、次の3点を提示している。

- (1) 行刑施設職員の勤務意欲は、年齢の高い方が高く、また、処遇の第一線で勤務する職員の方が高い。
- (2) 職場におけるストレスは、年齢では40歳代、階級では看守部長が強く感じている。
- (3) ストレスが高いにも関わらず、「燃え尽き症候群」のような問題が顕在化していない背景としては、支持支援者の存在と、組織に対する信頼感の強さが考えられる。

本研究においては、この先行研究を元にして、女子職員をも対象に含み、内容としては、職業に関する意識、健康状態、余暇に関する意識及び生活一般等にも範囲を広げて、行刑施設職員がどのようなことを考えながら生活しているのか、余暇時間をどのように過ごし

*前矯正協会附属中央研究所

ているのかについて調査を実施することにした。

2 目的

行刑施設職員が日ごろどのようなことを考えながら生活し、仕事に取り組んでいるかを調査し、より快適な職場及び私生活環境作り資する資料を得ることを目的とする。

3 方法

(1) 調査対象

調査対象は、1,557名（男子1,201名、女子356名）の行刑施設職員である。本研究は、一般職員の勤務意識を調査対象としていることから、調査対象の階級は副看守長、看守部長及び看守とした。

全国の行刑施設職員のうち、2000年4月26日現在の各施設の職員数を参考にし、男子施設からは35庁、女子施設からは5庁を調査対象施設とした。具体的職員の抽出に際しては、あらかじめ対象施設の職員名簿を使用し、男子施設では男子職員を、女子施設では女子職員を4分の1の割合で抽出かつ指定し、各施設に質問紙調査を実施依頼した。調査は任意である旨を事前に周知させた。

調査票の内容の秘密を確保するため、調査票は封筒と一緒に配布し、調査票記入後、封筒へ封入してもらい、各施設ごとに回収し、一括して中央研究所に送付する形式を採用した。

(2) 調査時期

2000年9月6日から同年9月30日までの25日間

(3) 調査内容

調査票は、職員用調査票1部のみから構成されている。その内容や作成経過は、次のとおりである。具体的質問項目については、資料を参照されたい。

ア 属性調査

- ① 性別
- ② 年齢
- ③ 勤務年数
- ④ 所属部門
- ⑤ 主につく配置
- ⑥ 階級

イ 職業に関する意識調査

① 職業志向尺度

若林他（1983）による尺度の簡易版である。「待遇や報酬が実力本位・能力本位であること」など、職業や仕事に何を求めるか、仕事条件やその結果に対する期待や好みを測定する内容の25問から6問を抽出したものであり、回答は「重要である」「少し重要である」「どちらとも言えない」「あまり重要でない」「重要でない」の5つの中から選ぶようになっている。質問項目の内容については、内容を変えない程度に表現を改めてある。

② 企業帰属意識尺度

関本・花田（1987）による尺度の簡易版である。「矯正を発展させるためならば、人並み以上の努力をすることをいとわない」など組織の目標、規範、価値観を受け入れ、その組織のために働きたいという意欲を測定する内容で、全体で24項目から12項目を抽出したものであり、回答は「あてはまる」「少しあてはまる」「どちらとも言えない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の5つの中から選ぶようになっている。質問項目の内容については、内容を変えない程度に表現を改めてある。

③ 職場に対する意識調査

職場において、職員の具体的状況での意識を問うものである。内城（1981）が大阪刑務所の職員に対して行った調査の引用である。「今後の仕事の継続」「職場の満足度」については5件法による回答であり、「職場に対する不満の理由」についてはあてはまるものを選択する形式である。

ウ 健康状態調査

健康管理の面から、身体的・精神的に職員の実態を問うものである。鈴木（1992）が札幌矯正管内施設職員に対して行った調査の引用であり、「健康度合い」「疲労感・不健康感」「病気の有無」「具体的病名」について問うものである。回答形式は、多肢選択法である。

エ 余暇に関する意識調査

職場以外の生活意識の中で、特に余暇に関する意識を問うものである。「余暇の目的」は、鈴木（1992）が札幌矯正管内施設職員に対して行った調査の引用であり、回答方式は5件法である。「仕事と余暇の関係」「余暇を一緒に過ごす人」「余暇を過ごす場所」「余暇の満足度」「余暇の不満な理由」については、内閣総理大臣官房広報室による調査（1992）を参考として作成したものである。「余暇を過ごす場所」が3件法、「余暇を一緒に過ごす人」が4件法、「仕事と余暇の関係」「余暇の満足度」がそれぞれ5件法、「余暇の不満な理由」が多肢選択法である。「休日数に対する考え」「希望する連続年休」は、内城（1981）が大阪刑務所の職員に対して行った調査の引用である。回答形式は多肢選択法である。

オ 生活一般に関する調査

職場、余暇のどちらにも属すると考えられるものや、生活・勤務形態に関する一般の意識を問うものである。「職場内でのクラブ活

動」「刑務官生活・研修に対する満足度」「官舎入居の有無」「官舎生活の満足度」「単身赴任経験の有無」「単身赴任に対する考え」に関して独自に作成した。回答形式は多肢選択法である。

4 結果

有効な回答を得られた1,557名の行刑施設職員について、年齢別に18～29歳、30～39歳、40～49歳及び50歳以上の4群に分け、それぞれ性別・年齢別に各項目について検討する。

(1) 項目別に見た行刑施設職員の特徴

ア 属性調査

㌈ 性別・年齢、勤務年数

対象者の性別・年齢の構成は表1、また、勤務年数については、表2のとおりである。女子職員の場合、年齢が低く経験年数の少ない若年職員に偏っていることが分かる。

表1 基本的属性

性別	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	244 (20.5)	311 (26.1)	422 (35.4)	216 (18.1)	1,193 (100.0)
女子	199 (56.1)	93 (26.2)	45 (12.7)	18 (5.1)	355 (100.0)
合計	443 (28.6)	404 (26.1)	467 (30.2)	234 (15.1)	1,548 (100.0)

注) ()内は構成比を示す。

表2 勤務年数

性別	5年未満	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	26～30年	31年以上	合計
男子	181 (15.2)	139 (11.7)	190 (16.0)	228 (15.6)	185 (15.6)	162 (13.6)	104 (8.7)	1,189 (100.0)
女子	147 (41.4)	83 (23.4)	50 (14.1)	27 (7.6)	24 (6.8)	20 (5.6)	4 (1.1)	355 (100.0)
合計	328 (21.2)	222 (14.4)	240 (15.5)	255 (16.5)	209 (13.5)	182 (11.8)	108 (7.0)	1,544 (100.0)

注1) ()内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表3 所属部門

性別	総務関係	処遇関係 (処遇)	処遇関係 (作業)	教育関係	分類関係	医療関係	その他	合計
男子	186 (15.6)	830 (69.6)	72 (6.0)	32 (2.7)	35 (2.9)	37 (3.1)	1 (0.1)	1,193 (100.0)
女子	42 (11.9)	269 (76.0)	6 (1.7)	14 (4.0)	15 (4.2)	8 (2.3)	—	354 (100.0)
合計	228 (14.7)	1099 (71.0)	78 (5.0)	46 (3.0)	50 (3.2)	45 (2.9)	1 (0.1)	1,547 (100.0)

注1) ()内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表4 配置

性別	区分	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
男子	昼夜勤勤務	183 (85.5) ▲[10.8]	82 (36.9) ▼[-5.8]	105 (41.3) ▼[-4.7]	77 (53.8) [0.0]	447 (53.7)
	日勤勤務	31 (14.5) ▼[-10.8]	140 (63.1) ▲[5.8]	149 (58.7) ▲[4.7]	66 (46.2) [0.0]	386 (46.3)
	合計	214 (100.0)	222 (100.0)	254 (100.0)	143 (100.0)	833 (100.0)
						$\chi^2(3)=127.802^{***}$
女子	昼夜勤勤務	121 (75.2)	30 (46.2)	16 (48.5)	4 (33.3)	171 (63.1)
	日勤勤務	40 (24.8)	35 (53.8)	17 (51.5)	8 (66.7)	100 (36.9)
	合計	161 (100.0)	65 (100.0)	33 (100.0)	12 (100.0)	271 (100.0)

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

(イ) 所属部門

表3は, 所属部門について見たものである。男女ともに処遇関係(処遇)が半数以上を占めていることが分かる。

(ウ) 配置・勤務の内容

表4は, 配置と年齢群について見たものである。なお, 度数が7未満の場合は, χ^2 検定の条件を満たしていないとし, 検定を行っていない。以下の χ^2 検定においても同様である。男女ともに昼夜勤勤務の割合が半分を超えている。男子については勤務形態と年齢群との間に有意な関連が見られた。残差分析を行い,

年齢群に注目すると, 18~29歳は昼夜勤勤務が有意に多く, 日勤勤務は有意に少なくなっている。30~49歳はともに昼夜勤勤務が有意に少なく, 日勤勤務は有意に多くなっている。

勤務の内容については, 表5のとおりであり, 工場勤務と処遇事務で占める割合が多いことが分かる。

(エ) 階級

表6は, 階級と年齢群について見たものである。男女ともに年齢群が上がっていくにつれて, 階級も高くなる傾向が分かる。

表5 勤務の内容

性別	工場勤務	舎房 (受刑区)	舎房 (拘置区)	構外作業	内・外掃 営繕	処遇事務	出廷	交代	合計
男子	129 (34.3)	37 (9.8)	23 (6.1)	19 (5.1)	35 (5.1)	115 (30.6)	9 (2.4)	9 (2.4)	376 (100.0)
女子	45 (45.0)	10 (10.0)	—	—	10 (10.0)	31 (31.0)	—	4 (4.0)	100 (100.0)
合計	174 (36.6)	47 (9.9)	23 (4.8)	19 (4.0)	45 (9.5)	146 (30.7)	9 (1.9)	13 (2.7)	476 (100.0)

注1) ()内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表6 階級

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	副看守長	6 (2.5)	17 (5.5)	119 (28.6)	166 (79.4)	308 (26.3)
	看守部長	16 (6.7)	72 (23.4)	251 (60.3)	43 (20.6)	382 (32.6)
	看守	217 (90.8)	219 (71.1)	46 (11.1)	—	482 (41.1)
	合計	239 (100.0)	308 (100.0)	416 (100.0)	209 (100.0)	1,172 (100.0)
女子	副看守長	—	5 (5.4)	19 (43.2)	13 (72.2)	37 (10.5)
	看守部長	13 (6.6)	35 (37.6)	20 (45.5)	5 (27.8)	73 (20.7)
	看守	184 (93.4)	53 (57.0)	5 (11.4)	—	242 (68.8)
	合計	197 (100.0)	93 (100.0)	44 (100.0)	18 (100.0)	352 (100.0)

注1) ()は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

(㊦) 家族との同居

表7は、家族との同居と年齢群を見たものである。男子では、年齢群が上がっていくにつれて、同居家族が「あり」の割合が増加している。女子においては、40～49歳までは男子と同様の傾向だが、50歳以上になると同居家族「あり」の割合が減少している。また、男女ともに18～29歳の同居家族「なし」の割合が他の年齢群に比べて際立って多い。

イ 職業に関する意識調査

(㊦) 職業志向尺度

表8は、「待遇や報酬が実力本位・能力本

位であること」など、職業志向に関する6項目について、「重要である」「少し重要である」の回答を「重要視」、「重要でない」「あまり重要でない」の回答を「非重要視」、「どちらとも言えない」の回答を「中立」と3群に分類し、年齢群ごとにみたものである。職業志向と年齢群の間について、男子において以下の3項目に有意な関連が見られた。

「2 待遇や報酬が実力本位・能力本位であること」については、「重要視」62.2%、以下「中立」31.6%、「非重要視」6.1%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注

表7 家族との同居

性別	区分	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
男子	同居なし	146 (60.1)	44 (14.2)	30 (7.2)	13 (6.0)	233 (19.6)
	妻〔夫〕のみ	32 (13.2)	24 (7.7)	17 (4.1)	39 (18.1)	112 (9.4)
	妻〔夫〕と子	41 (16.9)	197 (63.5)	248 (59.2)	111 (51.4)	597 (50.3)
	子のみ	—	2 (0.6)	1 (0.2)	5 (2.3)	8 (0.7)
	妻〔夫〕と子・ その他の家族	1 (0.4)	30 (9.7)	101 (24.1)	40 (18.5)	172 (14.5)
	その他	23 (9.5)	13 (4.2)	22 (5.3)	8 (3.7)	66 (5.6)
	合計	243 (100.0)	310 (100.0)	419 (100.0)	216 (100.0)	1,188 (100.0)
	同居なし	148 (74.4)	35 (37.6)	7 (15.9)	7 (38.9)	197 (55.6)
女子	妻〔夫〕のみ	10 (5.0)	8 (8.6)	—	1 (5.6)	19 (5.4)
	妻〔夫〕と子	8 (4.0)	16 (17.2)	11 (25.0)	1 (5.6)	36 (10.2)
	子のみ	1 (0.5)	11 (11.8)	1 (2.3)	1 (5.6)	14 (4.0)
	妻〔夫〕と子・ その他の家族	2 (1.0)	11 (11.8)	18 (40.9)	1 (5.6)	32 (9.0)
	その他	30 (15.1)	12 (12.9)	7 (15.9)	7 (38.9)	56 (15.8)
	合計	199 (100.0)	93 (100.0)	44 (100.0)	18 (100.0)	354 (100.0)

注1) () は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

目すると、40~49歳は「重要視」が有意に多く、「中立」は有意に少なくなっている。50歳以上は「重要視」が有意に少なく、「中立」及び「非重要視」は有意に多くなっている。

「4 上司との人間関係がよいこと」については、「重要視」78.0%、以下「中立」16.5%、「非重要視」5.6%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、40~49歳は「非重要視」が有意に少なく、50歳以上は「重要視」が有意に多くなっている。

「6 勤め先について世間で評判がよいこと」については、「重要視」は57.9%、以下「中立」29.1%、「非重要視」13.0%の順と

なっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、40~49歳は「重要視」が有意に多く、「非重要視」は有意に少なくなっている。

また、「3 仕事仲間との人間関係がよいこと」「安定した勤め先であること」では男女共に約9割が「重要視」の回答をしていることが分かる。

(イ) 企業帰属意識尺度

表9は、企業帰属意識に関する12項目について、「あてはまる」「少しあてはまる」の回答を「肯定」、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の回答を「否定」、「どちらとも言えない」の回答を「中立」と3群

表8 職業志向尺度

項目	区分	男子					女子				
		18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
1 仕事を通して社 会の役に立つこ と	重要視	199 (81.6)	241 (77.5)	334 (79.3)	169 (78.2)	943 (79.1)	126 (63.3)	49 (53.3)	25 (58.8)	14 (82.4)	214 (60.8)
	中立	31 (12.7)	57 (18.3)	66 (15.7)	37 (17.1)	191 (16.0)	56 (28.1)	33 (35.9)	11 (25.0)	1 (5.9)	101 (28.7)
	非重要視	14 (5.7)	13 (4.2)	21 (5.0)	10 (4.6)	58 (4.9)	17 (8.5)	10 (10.9)	8 (18.2)	2 (11.8)	37 (10.5)
2 待遇や報酬が実 力本位・能力本 位であること	重要視	155 (63.5) [0.5]	191 (61.4) [-0.3]	282 (67.3) ▲[2.7]	111 (51.9) ▼[-3.4]	739 (62.2)	110 (55.3)	39 (42.4)	20 (45.5)	9 (50.0)	178 (50.4)
	中立	75.0 (30.7) [-0.3]	102.0 (32.8) [0.5]	116.0 (27.7) ▼[-2.2]	83.0 (38.8) ▲[2.5]	376 (31.6)	68 (34.2)	43 (46.7)	18 (40.9)	6 (33.3)	135 (38.2)
	非重要視	14 (5.7) [-0.3]	18 (5.8) [-0.3]	21 (5.0) [-1.2]	20 (9.3) ▲[2.2]	73 (6.1)	21 (10.6)	10 (10.9)	6 (13.6)	3 (16.7)	40 (11.3)
3 仕事仲間との人 間関係がよいこ と	重要視	211 (86.5)	278 (89.7)	379 (90.2)	189 (88.3)	1,057 (89.0)	171 (85.9)	81 (87.1)	39 (88.6)	17 (94.4)	308 (87.0)
	中立	25 (10.2)	26 (8.4)	38 (9.0)	19 (8.9)	108 (9.1)	26.0 (13.1)	10.0 (10.8)	5.0 (11.4)	1.0 (5.6)	42 (11.9)
	非重要視	8 (3.3)	6 (1.9)	3 (0.7)	6 (2.8)	23 (1.9)	2 (1.0)	2 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.1)
4 上司との人間関 係がよいこと	重要視	193 (79.4) [0.6]	240 (77.2) [-0.4]	335 (79.6) [1.0]	159 (74.3) [-1.4]	927 (78.0)	155 (77.9)	64 (68.8)	35 (79.5)	16 (88.9)	270 (76.3)
	中立	39 (16.0) [-0.2]	49 (15.8) [-0.4]	73 (17.3) [0.6]	35 (16.4) [-0.1]	196 (16.5)	34 (17.1)	20 (21.5)	8 (18.2)	2 (11.1)	64 (18.2)
	非重要視	11 (4.5) [-0.8]	22 (7.1) [1.4]	13 (3.1) ▼[-2.7]	20 (9.3) ▲[2.7]	66 (5.6)	10 (5.0)	9 (9.7)	1 (2.3)	0 (0.0)	20 (5.6)
5 安定した勤め先 であること	重要視	289 (88.5)	386 (93.2)	198 (91.7)	1,089 (93.0)	1,089 (91.7)	168 (84.4)	81 (87.1)	37 (86.0)	18 (100.0)	304 (86.1)
	中立	21 (8.6)	15 (4.8)	28 (6.7)	15 (7.0)	79 (6.6)	25 (12.6)	9 (9.7)	6 (14.0)	0 (0.0)	40 (11.3)
	非重要視	7 (2.9)	6 (1.9)	7 (1.7)	0 (0.0)	20 (1.7)	6 (3.0)	3 (3.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (2.5)
6 勤め先について 世間で評判がよ いこと	重要視	130 (53.5) [-1.5]	168 (54.0) [-1.6]	269 (64.0) ▲[3.2]	121 (56.3) [-0.5]	688 (57.9)	62 (31.2)	38 (40.9)	20 (46.5)	13 (72.2)	133 (37.7)
	中立	73 (30.0) [0.4]	98 (31.5) [1.1]	110 (26.2) [-1.6]	65 (30.2) [0.4]	346 (29.1)	84 (42.2)	35 (37.6)	15 (34.9)	4 (22.2)	138 (39.1)
	非重要視	40 (16.5) [1.8]	45 (14.5) [0.9]	41 (9.8) ▼[-2.5]	29 (13.5) [0.2]	155 (13.0)	53 (26.6)	20 (21.5)	8 (18.6)	1 (5.6)	82 (23.2)

注1) ()内は構成比を示し、[]内は調整済み残差を示す。

注2) 「重要視」は「重要である」「少し重要である」, 「非重要視」は「重要でない」「あまり重要でない」, 「中立」は「どちらとも言えない」をそれぞれ示す。

注3) *は有意水準5%未満で有意差があることを示す。

注4) 男子の項目3, 5, 女子の項目については、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表9 企業帰属意識尺度

項目	区分	男子					女子				
		18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
1 職場の雰囲気は自分の価値観や考え方によく合っている	肯定	76 (31.3)	95 (30.5)	154 (36.7)	79 (36.9)	404 (34.0)	27 (13.6)	17 (18.3)	15 (34.1)	6 (33.3)	65 (18.4)
	中立	97 (39.9)	138 (44.4)	159 (37.9)	87 (40.7)	481 (40.5)	81 (40.7)	47 (50.5)	15 (34.1)	6 (33.2)	289 (42.1)
	否定	70 (28.8)	78 (25.1)	107 (25.5)	43 (22.4)	303 (25.5)	91 (45.7)	29 (31.2)	14 (31.8)	6 (33.3)	140 (39.5)
2 矯正の理念を抵抗なく受け入れることができる	肯定	97 (45.5)	131 (46.3)	119 (56.3)	84 (47.0)	431 (49.8)	44 (22.1)	27 (29.0)	17 (38.6)	11 (61.1)	99 (28.0)
	中立	97 (39.6)	131 (42.1)	119 (28.3)	84 (39.1)	431 (36.2)	102 (51.3)	50 (53.8)	19 (43.2)	4 (22.2)	175 (49.4)
	否定	36 (14.8)	36 (11.6)	65 (15.4)	30 (14.0)	167 (14.0)	53 (26.6)	16 (17.2)	8 (18.2)	3 (16.7)	80 (22.6)
3 幹部の考え方や運営方針には共鳴できるものが多い	肯定	69 (28.3)	77 (24.9)	140 (33.3)	83 (38.8)	369 (31.0)	23 (11.7)	9 (9.7)	9 (20.5)	10 (55.6)	51 (14.5)
	中立	108 (44.3)	137 (44.1)	173 (41.2)	78 (36.4)	496 (41.7)	91 (46.2)	39 (41.9)	16 (36.4)	3 (16.7)	149 (42.3)
	否定	67 (27.5)	97 (31.2)	107 (25.5)	53 (24.8)	324 (27.2)	83 (42.1)	45 (48.4)	19 (43.2)	5 (27.8)	152 (43.2)
4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い	肯定	81 (33.3)	125 (40.2)	224 (53.2)	122 (56.7)	552 (46.4)	19 (9.5)	12 (12.9)	16 (36.4)	8 (44.4)	55 (15.5)
	中立	125 (51.4)	154 (49.5)	161 (38.2)	84 (39.1)	524 (44.0)	115 (57.8)	49 (52.7)	20 (45.5)	9 (50.0)	193 (54.5)
	否定	37 (15.2)	32 (10.3)	36 (8.6)	9 (4.2)	114 (9.6)	65 (32.7)	32 (34.4)	8 (18.2)	1 (5.6)	106 (29.9)
5 矯正を発展させるために、人並み以上の努力をすることをいとわない	肯定	111 (45.5)	144 (46.3)	234 (56.3)	129 (60.0)	618 (51.9)	33 (16.6)	21 (22.6)	15 (34.1)	13 (72.2)	82 (23.2)
	中立	98 (40.2)	126 (40.5)	141 (33.5)	66 (30.7)	431 (36.2)	99 (49.7)	40 (43.0)	18 (40.9)	4 (22.2)	161 (45.5)
	否定	35 (14.3)	41 (13.2)	46 (10.9)	20 (9.3)	142 (11.9)	67 (33.7)	32 (34.4)	11 (25.0)	1 (5.6)	111 (31.4)
6 矯正の役に立つなら、自分の私生活が犠牲になっても仕方がない	肯定	111 (45.5)	144 (46.3)	234 (56.3)	129 (60.0)	618 (51.9)	33 (16.6)	21 (22.6)	15 (34.1)	13 (72.2)	82 (23.2)
	中立	98 (40.2)	126 (40.5)	141 (33.5)	66 (30.7)	431 (36.2)	99 (49.7)	40 (43.0)	18 (40.9)	4 (22.2)	161 (45.5)
	否定	35 (14.3)	41 (13.2)	46 (10.9)	20 (9.3)	142 (11.9)	67 (33.7)	32 (34.4)	11 (25.0)	1 (5.6)	111 (31.4)
7 たとえ現在よりもいい仕事や高い給料が与えられても、矯正の仕事が好きなので、他の仕事に移る気はない	肯定	80 (32.8)	91 (29.3)	136 (32.4)	88 (41.1)	395 (33.2)	22 (11.1)	20 (21.5)	18 (40.9)	13 (72.2)	73 (20.6)
	中立	159 (63.5)	233 (54.2)	335 (48.9)	178 (34.0)	802 (50.6)	74 (37.2)	33 (35.5)	13 (29.5)	4 (22.2)	124 (35.0)
	否定	86 (35.2)	104 (33.4)	117 (27.9)	50 (23.4)	357 (30.0)	103 (51.8)	40 (43.0)	13 (29.5)	1 (5.6)	157 (44.4)
8 たとえこの先、自分の望んでいる部門(希望する仕事)を歩むことがなくても、矯正の職場で働いていたい	肯定	134 (50.8)	190 (54.8)	241 (57.5)	128 (59.5)	663 (55.8)	33 (16.6)	25 (26.9)	21 (47.7)	12 (66.7)	91 (25.7)
	中立	86 (35.2)	103 (33.2)	132 (31.5)	60 (27.9)	381 (32.1)	91 (45.7)	48 (51.6)	11 (25.0)	5 (27.8)	155 (43.8)
	否定	34 (13.9)	37 (11.9)	46 (11.0)	27 (12.6)	144 (12.1)	75 (37.7)	20 (21.5)	12 (27.3)	1 (5.6)	108 (30.5)
9 せっかくここまで勤めたのだから、これから先も矯正の仕事が続けたい	肯定	159 (65.2)	233 (74.9)	335 (79.8)	178 (83.6)	805 (76.2)	67 (33.7)	48 (51.6)	25 (56.8)	17 (94.4)	157 (44.4)
	中立	68 (27.9)	66 (18.0)	67 (16.0)	24 (11.3)	215 (18.1)	76 (38.2)	34 (36.6)	16 (36.4)	0 (0.0)	126 (35.6)
	否定	17 (7.0)	22 (7.1)	43 (4.3)	11 (5.2)	68 (5.7)	56 (28.1)	11 (11.8)	3 (6.8)	1 (5.6)	71 (20.1)
10 自分の貢献に見合った待遇を受けていなければ、働く意欲は減ってこない	肯定	115 (47.1)	147 (47.3)	209 (49.8)	72 (33.6)	543 (45.7)	97 (48.7)	42 (45.2)	22 (50.0)	9 (50.0)	170 (48.0)
	中立	86 (35.2)	94 (30.2)	123 (29.3)	79 (36.9)	382 (32.1)	72 (36.2)	41 (44.1)	13 (29.5)	3 (16.7)	129 (36.4)
	否定	43 (17.6)	70 (22.5)	88 (21.0)	63 (29.4)	264 (22.2)	30 (15.1)	10 (10.8)	9 (20.5)	6 (33.3)	55 (15.5)
11 今の職場で自分にとってやりがいのある仕事や担当させてもらえないなら、ここ(こ)にいてもあまり意味がない	肯定	53 (21.9)	52 (16.7)	62 (14.8)	22 (10.2)	189 (15.9)	36 (18.1)	17 (18.3)	5 (11.4)	2 (11.1)	60 (16.9)
	中立	97 (39.8)	132 (42.4)	172 (41.1)	94 (43.7)	495 (41.6)	101 (50.8)	48 (51.6)	25 (56.8)	7 (38.9)	181 (51.1)
	否定	94 (38.5)	127 (40.8)	185 (44.2)	99 (46.0)	505 (42.5)	62 (31.2)	28 (30.1)	14 (31.8)	9 (50.0)	113 (31.9)
12 今の仕事から得るものがあつたら、矯正の仕事が続けたい	肯定	163 (66.8)	190 (61.1)	244 (58.2)	130 (60.5)	727 (61.1)	114 (57.3)	46 (49.5)	25 (56.8)	13 (72.2)	198 (55.9)
	中立	66 (27.0)	62 (26.4)	82 (28.9)	32 (28.8)	331 (27.8)	64 (32.2)	39 (40.9)	16 (36.4)	3 (16.7)	121 (34.2)
	否定	15 (6.1)	39 (12.5)	54 (12.9)	23 (10.7)	131 (11.0)	21 (10.6)	9 (9.7)	3 (6.8)	2 (11.1)	35 (9.9)

注1) () 内は構成比を示し、[] 内は調整済み残差を示す。
 注2) 「肯定」は「あてはまる」「少しあてはまる」、「否定」は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」、「中立」は「どちらとも言えない」をそれぞれ示す。
 注3) *は有意水準5%、**は有意水準1%、***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。
 注4) 女子の項目については、期待値算出にあたり、χ²検定が不適当と判断された。
 注5) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)
 注6) 無回答は除く。

に分類し、年齢群ごとに見たものである。企業帰属意識と年齢群の間について、男子は8項目に有意な関連が見られた。

「2 矯正の理念を抵抗なく受け入れることができる」については、「肯定」49.8%、以下「中立」36.2%、「否定」14.0%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、30～39歳は「中立」が有意に多くなっている。40～49歳は「肯定」が有意に多く、「中立」は有意に少なくなっている。

「3 幹部の考え方や運営方針には共鳴できるものが多い」については、「中立」41.7%、以下「肯定」31.0%、「否定」27.2%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、30～39歳は「肯定」が有意に少なく、50歳以上は「肯定」が有意に多くなっている。

「4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い」については、「肯定」46.4%、以下「中立」44.0%、「否定」9.6%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「肯定」が有意に少なく、「中立」及び「否定」が有意に多くなっている。30～39歳は「肯定」が有意に少なく、「中立」は有意に多くなっている。40～49歳は「肯定」が有意に多く、「中立」が有意に少なくなっている。50歳以上は「肯定」が有意に多く、「否定」が有意に少なくなっている。

「5 矯正を発展させるためならば、人並み以上の努力をすることをいとわない」については、「肯定」51.9%、以下「中立」36.2%、「否定」11.9%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、39歳以下は「肯定」が有意に少なく、50歳以上では「肯定」が有意に多くなっている。

「6 矯正の役に立つなら、自分の私生活が犠牲になっても仕方がない」については、「否定」50.6%、以下「中立」29.3%、「肯定」20.1%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「肯定」

及び「中立」が有意に少なく、「否定」が有意に多くなっている。30～39歳は「肯定」が有意に少なく、40～49歳は「肯定」が有意に多くなっている。50歳以上は「肯定」及び「中立」で有意に多く、「否定」で有意に少なくなっている。

「7 たとえ現在よりもいい仕事や高い給料が与えられても、矯正の仕事が好きなので、他の仕事に移る気はない」については、「中立」36.8%、以下「肯定」33.2%、「否定」30.0%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「否定」が有意に多くなっている。50歳以上では「肯定」が有意に多く、「否定」は有意に少なくなっている。

「9 せっかくここまで勤めたのだから、これからも矯正の仕事を続けたい」については、「肯定」76.2%、以下「中立」18.1%、「否定」5.7%となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「肯定」が有意に少なく、「中立」は有意に多くなっている。40歳以上は「肯定」が有意に多く、50歳以上は「中立」が有意に少なかった。

「10 自分の貢献に見合った待遇を受けていなければ、働く意欲はわいてこない」については、「肯定」45.7%、以下「中立」32.1%、「否定」22.2%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、40～49歳は「肯定」が有意に多かった。50歳以上では「肯定」が有意に少なく、「否定」は有意に多くなっている。

性別に見ると、「4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い」「5 矯正を発展させるためならば、人並み以上の努力をすることをいとわない」「8 たとえこの先、自分の望んでいる部門（希望する仕事）を歩むことがなくても、矯正の職場で働いていたい」「9 せっかくここまで勤めたのだから、これから先も矯正の仕事を続けていたい」において、男子職員の「肯定」

回答率は、女子職員よりも約3割高いことが分かる。また、「4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い」「5 矯正を発展させるためならば、人並み以上の努力をすることをいとわない」

「6 矯正の役に立つなら、自分の私生活が犠牲になっても仕方がない」において、女子職員の「否定」回答率は、男子職員よりも約2割高いことが示された。

㊦ 仕事への定着意識

表10は、「仕事への定着意識」について、「ずっと続けたい」「変わりたいと思うことはあるが、このまま続けることになるだろう」の回答を「定着」,「どうしても変わりたい」「機会があったら変わりたい」の回答を「非

定着」,「どちらとも言えない」の回答を「中立」と3群に分類し、年齢群との関連を示したものである。男子は「定着」81.3%,以下「中立」10.8%、「非定着」7.9%の順となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18~29歳は「定着」が有意に少なく、「中立」及び「非定着」は有意に多くなっている。40~49歳は「定着」は有意に多く、「中立」が有意に少なくなっている。50歳以上は「定着」が有意に多くなっている。

女子については、「定着」59.7%,以下「非定着」23.3%、「中立」17.0%の順となっている。「定着」の割合が男子よりもやや少ないことが分かる。

表10 仕事への定着意識

性別	区分	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
男子	定着	172 (71.4) ▼[-4.4]	246 (79.4) [-1.0]	359 (85.7) ▲[2.9]	186 (86.5) ▲[2.2]	963 (81.3)
	中立	40 (16.6) ▲[3.2]	38 (12.3) [1.0]	33 (7.9) ▼[-2.4]	17 (7.9) [-1.5]	128 (10.8)
	非定着	29 (12.0) ▲[2.6]	26 (8.4) [0.3]	27 (6.4) [-1.4]	12 (5.6) [-1.4]	94 (7.9)
	合計	241 (100.0)	310 (100.0)	419 (100.0)	215 (100.0)	1,185 (100.0)
女子	定着	97 (49.0)	63 (68.5)	35 (79.5)	15 (83.3)	210 (59.7)
	中立	40 (20.2)	14 (15.2)	4 (9.1)	2 (11.1)	60 (17.0)
	非定着	61 (30.8)	15 (16.3)	5 (11.4)	1 (5.6)	82 (23.3)
	合計	198 (100.0)	92 (100.0)	44 (100.0)	18 (100.0)	352 (100.0)

$\chi^2(6)=25.727^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「定着」は「ずっと続けたい」「変わりたいと思うことはあるが、このまま続けることになるだろう」, 「非定着」は「どうしても変わりたい」「機会があったら変わりたい」, 「中立」は「どちらとも言えない」をそれぞれ示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表11 職場生活の満足度

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	満足	75 (31.1) [-1.5]	89 (28.8) ▼[-2.8]	165 (39.5) ▲[2.2]	88 (40.9) [1.9]	417 (35.2)
	どちらでもない	714 (29.5) [1.0]	95 (30.7) [1.7]	96 (23.0) ▼[-2.3]	57 (26.5) [-0.2]	319 (27.0)
	不満	95 (39.4) [0.6]	125 (40.5) [1.1]	157 (37.6) [-0.1]	70 (32.6) [-1.7]	447 (37.8)
	合計	241 (100.0)	309 (100.0)	418 (100.0)	215 (100.0)	1,183 (100.0)
	満足	34 (17.2)	21 (22.8)	8 (17.8)	9 (50.0)	72 (20.4)
女子	どちらでもない	71 (35.9)	25 (27.2)	16 (35.6)	5 (27.8)	117 (33.1)
	不満	93 (47.0)	46 (50.0)	21 (46.7)	4 (22.2)	164 (46.5)
	合計	198 (100.0)	92 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	353 (100.0)

$\chi^2(3)=15.894^*$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。
 注2) 「満足」は「満足」「やや満足」, 「不満」は「不満」「やや不満」を示す。
 注3) *は有意水準5%未満で有意差があることを示す。
 注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。
 注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)
 注6) 無回答は除く。

㊦ 職場の満足度

表11は, 「職場の満足度」について, 「満足」「やや満足」の回答を「満足」, 「不満」「やや不満」の回答を「不満」とし, 「どちらでもない」を合わせて3群に分類し, 年齢群との関連を示したものである。

男子について項目ごとにみると, 「不満」37.8%, 以下「満足」35.2%, 「どちらでもない」27.0%の順となっている。職場の満足度と年齢群の間に有意な関連が見られた。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 40～49歳は「満足」が有意に多く, 「どちらでもない」は有意に少なくなっている。30～39歳では「満足」が有意に少ないことが分かる。

女子については, 「不満」46.5%, 以下「どちらでもない」33.1%, 「満足」が20.4%の順であり, 49歳までは「不満」が, 50歳以上

では「満足」がそれぞれ半数を占めている。

㊦ 職場に対する不満の理由

表12は, 職場の満足度に関して「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の31.4%)のうち, 「職場に対する不満の理由」に関する12項目について, 年齢群との関連を見たものである。なお, 「あてはまる」の回答を「肯定」, 「あてはまらない」の回答を「否定」とした。職場に対する不満の理由と年齢群の間について, 男子は1項目について有意な関連が見られた。

「5 良い上司に恵まれないから」については, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の31.4%)のうち, 「肯定」が45.6%, 「否定」は54.4%である。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 50歳以上は「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なく

表12 職場に対する不満の理由

項目	区分	男子					女子				
		18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
1 仕事自体に生きがいがないから	肯定	23 (24.2)	28 (22.6)	37 (23.9)	11 (15.9)	99 (22.3)	23 (24.7)	10 (21.7)	3 (14.3)	1 (25.0)	37 (22.6)
	否定	72 (75.8)	96 (77.4)	118 (76.1)	58 (84.1)	344 (77.7)	70 (75.3)	36 (78.3)	18 (85.7)	3 (75.0)	127 (77.4)
2 収入が少ないから	肯定	33 (34.7)	31 (25.0)	40 (25.8)	14 (20.3)	118 (26.6)	15 (16.1)	5 (10.9)	1 (4.8)	-	21 (12.8)
	否定	62 (65.3)	93 (75.0)	115 (74.2)	55 (79.7)	325 (73.4)	78 (83.9)	41 (89.1)	20 (95.2)	4 (100.0)	143 (87.2)
3 現在の地位や仕事が気に入らないから	肯定	12 (12.6)	20 (16.1)	27 (17.4)	7 (10.1)	66 (14.9)	6 (6.5)	5 (10.9)	1 (4.8)	1 (25.0)	13 (7.9)
	否定	83 (87.4)	104 (83.9)	128 (82.6)	62 (89.9)	377 (85.1)	87 (93.5)	41 (89.1)	20 (95.2)	3 (75.0)	151 (92.1)
4 職場の安定性がないから	肯定	4 (4.2)	4 (3.2)	5 (3.2)	5 (7.2)	18 (4.1)	6 (6.5)	-	2 (9.5)	-	8 (4.9)
	否定	91 (95.8)	120 (96.8)	150 (96.8)	64 (92.8)	425 (95.9)	87 (93.5)	46 (100.0)	19 (90.5)	4 (100.0)	156 (95.1)
5 よい上司に恵まれないから	肯定	31 (32.6)	59 (47.6)	72 (46.5)	40 (58.0)	202 (45.6)	41 (44.1)	32 (69.6)	15 (71.4)	2 (50.0)	90 (54.9)
	否定	64 ▼[-2.9]	65 [0.5]	83 [0.3]	29 ▲[2.2]	241 x ² (3)=10.939	52 (55.9)	14 (30.4)	6 (28.6)	2 (50.0)	74 (45.1)
6 よい同僚に恵まれないから	肯定	12 (12.6)	13 (10.5)	17 (11.0)	9 (13.0)	51 (11.5)	8 (8.6)	6 (13.0)	1 (4.8)	1 (25.0)	16 (9.8)
	否定	83 (87.4)	111 (89.5)	138 (89.0)	60 (87.0)	392 (88.5)	85 (91.4)	40 (87.0)	20 (95.2)	3 (75.0)	148 (90.2)
7 職場の施設や設備が不十分だから	肯定	34 (35.8)	42 (33.9)	54 (34.8)	17 (24.6)	147 (33.2)	30 (32.3)	14 (30.4)	8 (38.1)	2 (50.0)	54 (32.9)
	否定	61 (64.2)	82 (66.1)	101 (65.2)	52 (75.4)	296 (66.8)	63 (67.7)	32 (69.6)	13 (61.9)	2 (50.0)	110 (67.1)
8 自分の能力を發揮する場がないから	肯定	18 (18.9)	18 (14.5)	23 (14.8)	9 (13.0)	68 (15.3)	11 (11.8)	8 (17.4)	1 (4.8)	-	20 (12.2)
	否定	77 (81.1)	106 (85.5)	132 (85.2)	60 (87.0)	375 (84.7)	82 (88.2)	38 (82.6)	20 (95.2)	4 (100.0)	144 (87.8)
9 労働時間や休暇に不満があるから	肯定	57 (60.0)	64 (51.6)	84 (54.2)	30 (43.5)	235 (53.0)	64 (68.6)	28 (60.9)	16 (76.2)	3 (75.0)	111 (67.7)
	否定	38 (40.0)	60 (48.4)	71 (45.8)	39 (56.5)	208 (47.0)	29 (31.2)	18 (39.1)	5 (23.8)	1 (25.0)	53 (32.3)
10 昇級や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから	肯定	21 (22.1)	21 (16.9)	39 (25.2)	19 (27.5)	100 (22.6)	14 (15.1)	8 (17.4)	9 (42.9)	2 (50.0)	33 (20.1)
	否定	74 (77.9)	103 (83.1)	116 (74.8)	50 (72.5)	343 (77.4)	79 (84.9)	38 (82.6)	12 (57.1)	2 (50.0)	131 (79.9)
11 被収容者に問題が多いから	肯定	28 (29.5)	42 (33.9)	43 (27.7)	12 (17.4)	125 (28.2)	40 (43.0)	24 (52.2)	8 (38.1)	2 (50.0)	74 (45.1)
	否定	67 (70.5)	82 (66.1)	112 (72.3)	57 (82.6)	318 (71.8)	53 (57.0)	22 (47.8)	13 (61.9)	2 (50.0)	90 (54.9)
12 その他	肯定	14 (14.7)	18 (14.5)	22 (14.2)	6 (8.7)	60 (13.5)	5 (5.4)	8 (17.4)	5 (23.8)	-	18 (11.0)
	否定	81 (85.3)	106 (85.5)	133 (85.8)	63 (91.3)	383 (86.5)	88 (94.6)	38 (82.6)	16 (76.2)	4 (100.0)	146 (89.0)

注1) ()内は構成比を示し、[]内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し、「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) *は有意水準5%未満で有意差があることを示す。

注4) 男子の項目3, 4, 12, 女子の項目については、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表13 体調

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	健康	188 (78.3) ▲[3.2]	234 (75.7) ▲[2.7]	278 (66.7) [-1.7]	121 (57.3) ▼[-4.3]	821 (69.8)
	どちらでもない	29 (12.1) [-0.4]	34 (11.0) [-1.1]	63 (15.1) [1.7]	25 (11.8) [-0.5]	151 (12.8)
	不健康	23 (9.6) ▼[-3.6]	41 (13.3) ▼[-2.2]	76 (18.2) [0.5]	65 (30.8) ▲[5.7]	205 (17.4)
	合計	240 (100.0)	309 (100.0)	417 (100.0)	211 (100.0)	1,177 (100.0)
	健康	126 (64.6)	51 (56.0)	23 (52.3)	9 (50.0)	209 (60.1)
女子	どちらでもない	32 (16.4)	17 (18.7)	6 (13.6)	6 (33.3)	61 (17.5)
	不健康	37 (19.0)	23 (25.3)	15 (34.1)	3 (16.7)	78 (22.4)
	合計	195 (100.0)	91 (100.0)	44 (100.0)	18 (100.0)	348 (100.0)
	健康	126 (64.6)	51 (56.0)	23 (52.3)	9 (50.0)	209 (60.1)

$\chi^2(6)=45.475^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。
 注2) 「健康」は「健康」「やや健康」, 「不健康」は「健康でない」「あまり健康でない」を示す。
 注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。
 注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。
 注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)
 注6) 無回答は除く。

なっている。18～29歳では「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多くなっている。

女子全体においては, 有意差は見られなかったものの, 「5 良い上司に恵まれないから」については, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の31.4%)のうち, 「肯定」が5割強を占めている。

また, 男女に共通する点として, 「9 労働時間や休暇に不満があるから」がともに50%を超えていることが分かる。

ウ 健康状態調査

㌸ 体調

表13は, 「体調」について, 「健康」「やや健康」の回答を「健康」, 「健康でない」「あまり健康でない」の回答を「不健康」とし, 「どちらでもない」を合わせて3群に分類し, 年齢群との関連を見たものである。体調と年齢群の間について, 男子においては有

意な関連が見られた。

男子は, 「健康」69.8%, 以下「不健康」17.4%, 「どちらでもない」12.8%の順となっている。体調と年齢群の間に有意な関連が見られた。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 39歳以下は「健康」が有意に多く, 「不健康」は有意に少なくなっている。50歳以上は「健康」が有意に少なく, 「不健康」は有意に多くなっている。

女子は, 「健康」60.1%, 以下「不健康」以下22.4%, 「どちらでもない」17.5%の順となっている。各年齢群別に見るとどの年齢群においても「健康」の割合が5割強と男子同様多いことが分かる。

(イ) 疲労感

表14は, 「疲労感」に関する6項目について, 「あてはまる」「少しあてはまる」の回答を「肯定」, 「あてはまらない」「あまり

表14 疲労感

項目	区分	男子					女子				
		18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
1 肉体的な疲労を感じる	肯定	169 (69.8)	204 (66.0)	284 (67.9)	145 (67.8)	802 (67.8)	169 (85.8)	78 (83.9)	39 (86.7)	16 (88.9)	302 (85.6)
	中立	32 (12.8)	42 (13.6)	44 (10.5)	34 (15.9)	151 (12.8)	16 (8.1)	6 (6.5)	4 (8.9)	2 (11.1)	28 (7.9)
	否定	42 (17.4)	63 (20.4)	90 (21.5)	35 (16.4)	230 (19.4)	12 (6.1)	9 (9.7)	2 (4.4)	0 (0.0)	23 (6.5)
2 精神的な疲労・ストレスを感じる	肯定	199 (82.2)	258 (83.0)	350 (83.1)	166 (77.2)	973 (81.8)	181 (91.4)	85 (91.4)	41 (93.2)	17 (94.4)	324 (91.8)
	中立	25 (10.3)	28 (9.0)	33 (7.8)	23 (10.7)	109 (9.2)	12 (6.1)	4 (4.3)	2 (4.5)	0 (0.0)	18 (5.1)
	否定	18 (7.4)	25 (8.0)	38 (9.0)	26 (12.1)	107 (9.0)	5 (2.5)	4 (4.3)	1 (2.3)	1 (5.6)	11 (3.1)
3 体力の衰えを感じる	肯定	86 (35.4)	176 (56.8)	325 (77.9)	177 (82.7)	764 (64.5)	118 (60.2)	79 (85.9)	39 (86.7)	18 (100.0)	254 (72.4)
	中立	54 (22.2)	70 (22.6)	53 (12.7)	19 (8.9)	196 (16.6)	37 (18.9)	9 (9.8)	6 (13.3)	0 (0.0)	52 (14.8)
	否定	103 (42.4)	64 (20.6)	39 (9.4)	18 (8.4)	224 (18.9)	41 (20.9)	4 (4.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	45 (12.8)
4 成人病(生活習慣病)に対して心配である	肯定	85 (35.0)	169 (54.5)	269 (64.4)	145 (68.1)	668 (56.4)	60 (30.5)	38 (41.3)	24 (54.5)	13 (72.2)	135 (38.5)
	中立	49 (20.2)	57 (18.4)	69 (16.5)	66 (15.5)	208 (17.6)	44 (22.3)	32 (34.8)	12 (27.3)	3 (16.7)	91 (25.9)
	否定	109 (44.9)	84 (27.1)	80 (19.1)	35 (16.4)	308 (26.0)	93 (47.2)	22 (23.9)	8 (18.2)	2 (11.1)	125 (35.6)
5 運動不足である	肯定	84 (34.6)	162 (52.4)	259 (61.7)	141 (65.9)	646 (54.5)	109 (55.3)	63 (67.7)	31 (70.5)	14 (77.8)	217 (61.6)
	中立	46 (18.9)	52 (16.8)	62 (14.8)	31 (14.5)	191 (16.1)	38 (19.3)	14 (15.1)	8 (18.2)	2 (11.1)	62 (17.6)
	否定	113 (46.5)	95 (30.7)	99 (23.6)	42 (19.6)	349 (29.4)	50 (25.4)	16 (17.2)	5 (11.4)	2 (11.1)	73 (20.7)
6 肥満である	肯定	66 (27.2)	116 (37.5)	167 (39.9)	84 (39.4)	433 (36.6)	49 (24.7)	43 (46.7)	20 (46.5)	8 (44.4)	120 (34.2)
	中立	46 (18.9)	49 (15.9)	58 (13.8)	29 (13.6)	182 (15.4)	61 (30.8)	20 (21.7)	6 (14.0)	3 (16.7)	90 (25.6)
	否定	131 (53.9)	144 (46.6)	194 (46.3)	100 (46.9)	569 (48.1)	88 (44.4)	29 (31.5)	17 (39.5)	7 (38.9)	141 (40.2)

注1) () 内は構成比を示し, [] 内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」「少しあてはまる」, 「否定」は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」, 「中立」は「どちらともいえない」をそれぞれ示す。

注3) *は有意水準5%, ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子の項目については, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表15 病気や気になる症状

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計	
男子	あり	52 (21.4) ▼[-7.7]	103 (33.1) ▼[-4.2]	223 (53.3) ▲[5.2]	135 (62.8) ▲[6.4]	513 (43.2)	$\chi^2(3)=111.113^{***}$
		191 (78.6) ▲[7.7]	208 (66.9) ▲[4.2]	195 (46.7) ▼[-5.2]	80 (37.2) ▼[-6.4]	674 (56.8)	
	合計	243 (100.0)	311 (100.0)	418 (100.0)	215 (100.0)	1,187 (100.0)	
	女子	あり	60 (30.3)	45 (48.4)	28 (62.2)	13 (72.2)	
なし		138 (69.7)	48 (51.6)	17 (37.8)	5 (27.8)	208 (58.8)	
合計		198 (100.0)	93 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	354 (100.0)	

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

あてはまらない」を「否定」, 「どちらとも言えない」の回答を「中立」と3群に分類し, 年齢群との関連を見たものである。疲労感と年齢群の間について, 男子は4項目について有意な関連が見られた。

男子についてみると, 「3 体力の衰えを感じる」については, 「肯定」64.5%, 以下「否定」18.9%, 「中立」16.6%の順となっている。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 18～29歳は「肯定」が有意に少なく, 「中立」及び「否定」は有意に多くなっている。30～39歳は, 「肯定」が有意に少なく, 「中立」は有意に多くなっている。40歳以上は, 「肯定」が有意に多く, 「中立」及び「否定」は有意に少なかった。

「4 成人病(生活習慣病)に対して心配である」については, 「肯定」56.4%, 以下「否定」26.0%, 「中立」17.6%の順となっている。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 18～29歳は, 「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多くなっている。40歳以上は「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なくなっている。

「5 運動不足である」については, 「肯定」54.5%, 以下「否定」29.4%, 「中立」16.1%の順となっている。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 18～29歳は, 「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多くなっている。40歳以上は「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なくなっている。

「6 肥満である」については, 「否定」48.1%, 以下, 「肯定」36.6%, 「中立」15.4%の順となっている。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 18～29歳については, 「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多くなっている。

女子についてみると, 年齢群別には有意差が見られなかったものの, 「2 精神的な疲労・ストレスを感じる」については, 「肯定」が91.8%, 「1 肉体的な疲労を感じる」は, 85.6%が「肯定」と回答しており, 女子は肉体的, 精神的にも疲労を感じていることが分かる。

㉔ 病気や気になる症状

表15は, 「病気や気になる症状」について, 年齢群との関連を見たものである。病気や気

になる症状の有無と年齢群の間について、男子で有意な関連が見られた。

男子の「病気や気になる症状」については、「あり」は43.2%、「なし」が56.8%である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、40歳以上は「あり」が有意に多く、「なし」は有意に少なくなっている。39歳以下については、「あり」が有意に少なく、「なし」は有意に多くなっている。

男女ともに、年齢が上がるごとに、「病気や気になる症状がある」について肯定的な回答をする割合が増えていることが分かる。

(イ) 病名別罹患割合

表16は、病気や気になる症状がある職員(全体の42.8%)のうち「病名別罹患割合」について、年齢群との関連を見たものである。男子においては「病名ごとの罹患している割合」と年齢群の間について、腰痛で有意な関連が見られた。男子の腰痛については、「あり」が33.4%、「なし」は66.6%である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18~29歳以下は「あり」が有意に多く、「なし」は有意に少なくなっている。40~49歳以下は「あり」が有意に少なく、「なし」は有意に多くなっている。

女子の腰痛については、年齢ごとの有意差はなかったものの、「あり」の占める割合が43.8%で、男子同様に高い割合であることが分かる。

エ 余暇に関する意識調査

(イ) 余暇の目的

表17は、「余暇の目的」について、年齢群との関連を見たものである。

男子についてみると、「スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ」が36.4%、「家族、友人、知人との交流を楽しむ」が31.9%であり、各年齢群において、この2つのカテゴリーに多くあてはまる事が分かる。

女子全体については、「家族、友人、知人

との交流を楽しむ」が41.9%、「のんびり休養して鋭気を養う」が33.0%であり、各年齢層の上位2位までを同じ内容が占めている。

(イ) 仕事と余暇の関係

表18は、「仕事と余暇の関係」について、年齢群との関連を見たものである。「余暇を楽しむことが最も大切である」「できるだけ余暇を楽しむ」の回答を「余暇を楽しむ」、 「仕事最も大切である」「できるかぎり仕事の方に力を注ぐ」の回答を「仕事大切」とし、「仕事も余暇も両方大切である」の回答を「両方大切」と3群に分類した。

男子全体では「余暇を楽しむ」が22.4%で、年齢が上がるにつれて「余暇を楽しむ」割合は減っているのが分かる。「仕事大切」については、全体で「仕事大切」は4.6%であり、30~39歳で少し下がるものの、全体としては年齢とともに上がっていることが分かる。「両方大切」は、73.0%であった。

女子全体では「余暇を楽しむ」が39.3%で、年齢が上がるにつれて男子同様に「余暇を楽しむ」割合は減っているのが分かる。「仕事大切」については、女子全体で「仕事大切」は4.0%であり、年齢とともに上がっていることが分かる。「両方大切」は、56.8%であった。

(イ) 余暇を一緒に過ごす人

表19は、「余暇を一緒に過ごす人」について、年齢群との関連を見たものである。余暇を一緒に過ごす人と年齢群の間について、男子で有意な関連が見られた。

男子の「余暇を一緒に過ごす人」については、「家族」が59.3%、以下「職場以外の友人」17.7%、「自分独り」14.7%、「職場の友人」8.3%となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると以下のことが分かる。18~29歳では「職場以外の友人」「自分独り」「職場の友人」が有意に多く、「家族」が有意に少なくなっている。30~39歳では「家族」が有意に多く、「自分独り」「職場以外の友

表16 病名別罹患割合（%）

性別	項目	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	1 高血圧	0.8	21.4	29.1	34.8	27.1
	2 低血圧	3.9	1.9	4.5	1.5	3.1
	3 肥満	31.4	30.1	24.7	20.0	25.2
	4 やせすぎ	7.8	1.9	2.2	4.4	3.3
	5 脳卒中	—	—	—	1.5	0.4
	6 心筋梗塞	—	—	0.4	3.0	1.0
	7 その他の心臓病	2.0	1.0	7.2	16.3	7.8
	8 胃・十二指腸潰瘍	5.9	12.6	16.6	10.4	13.1
	9 慢性胃炎	5.9	3.9	13.0	9.6	9.6
	10 慢性気管支炎	3.9	2.9	1.3	3.7	2.5
	11 肝臓病	3.9	4.9	10.8	8.9	8.4
	12 糖尿病	2.0	3.9	11.2	17.8	10.5
	13 結核	—	—	0.4	0.7	0.4
	14 腰痛	▲47.1	36.9	▼27.8	34.8	33.4
	15 貧血	7.8	1.0	2.2	2.2	2.5
	16 神経痛	5.9	1.9	4.0	3.0	3.5
	17 精神科疾患	2.0	1.9	3.6	0.7	2.3
	18 婦人科疾患	—	—	—	—	—
	19 眼科疾患	2.0	5.8	4.9	11.9	6.6
	20 耳鼻咽喉科疾患	7.8	16.5	8.1	12.6	10.9
	21 泌尿器系疾患	—	3.9	5.4	9.6	5.7
	22 痔疾	5.9	6.8	9.4	10.4	8.8
	23 通風	5.9	5.8	7.2	10.4	7.6
	24 風邪	5.9	3.9	1.3	0.7	2.1
	25 リウマチ	—	—	0.4	2.2	0.8
女子	1 高血圧	1.7	2.2	25.0	38.5	9.6
	2 低血圧	11.7	2.2	7.1	—	6.8
	3 肥満	16.7	28.9	35.7	15.4	24.0
	4 やせすぎ	3.3	—	—	—	1.4
	5 脳卒中	—	—	—	—	—
	6 心筋梗塞	—	—	—	—	—
	7 その他の心臓病	1.7	4.4	3.6	15.4	4.1
	8 胃・十二指腸潰瘍	—	4.4	21.4	7.7	6.2
	9 慢性胃炎	10.0	11.1	7.1	—	8.9
	10 慢性気管支炎	1.7	—	3.6	—	1.4
	11 肝臓病	1.7	2.2	3.6	—	2.1
	12 糖尿病	—	2.2	3.6	23.1	3.4
	13 結核	—	—	—	—	—
	14 腰痛	51.7	40.0	32.1	46.2	43.8
	15 貧血	16.7	20.0	25.0	15.4	19.2
	16 神経痛	3.3	4.4	17.9	7.7	6.8
	17 精神科疾患	8.3	8.9	—	—	6.2
	18 婦人科疾患	16.7	13.3	17.9	7.7	15.1
	19 眼科疾患	—	2.2	7.1	—	2.1
	20 耳鼻咽喉科疾患	5.0	8.9	3.6	—	5.5
	21 泌尿器系疾患	5.0	6.7	3.6	7.7	5.5
	22 痔疾	—	—	10.7	7.7	2.7
	23 通風	—	2.2	—	7.7	1.4
	24 風邪	10.0	2.2	7.1	7.7	6.8
	25 リウマチ	—	—	3.6	7.7	1.4

注1) 数値は罹患している構成比を示す。

注2) *は有意水準5%未満で有意差があることを示す。

注3) 男子の項目18, 女子の項目5, 6, 13は, 該当者がいないことを示す。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

注6) 罹患していない割合は省略した。

表17 余暇の目的

性別	項目	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計	合計
男子	1 のんびり休養して鋭気を養う	51 (21.0)	39 (12.6)	85 (20.4)	57 (27.0)	232 (19.7)	232 (19.7)
	2 家族、友人、知人との交流を楽しむ	78 (32.1)	147 (47.4)	118 (28.4)	34 (16.1)	377 (31.9)	377 (31.9)
	3 自然に親しむ	6 (2.5)	10 (3.2)	27 (6.5)	26 (12.3)	69 (0.8)	69 (0.8)
	4 知識や教養を高める	7 (2.9)	5 (1.6)	5 (1.2)	2 (0.9)	19 (1.6)	19 (1.6)
	5 スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ	97 (39.9)	102 (32.9)	150 (36.1)	81 (38.4)	430 (36.4)	430 (36.4)
	6 仕事に役立つ能力開発のための学習を行う	3 (1.2)	2 (0.6)	6 (1.4)	—	11 (0.9)	11 (0.9)
	7 地域・社会的活動やボランティア活動を行う	1 (0.4)	5 (1.6)	25 (6.0)	11 (5.2)	42 (3.6)	42 (3.6)
	合 計	243 (100.0)	310 (100.0)	416 (100.0)	211 (100.0)	1,180 (100.0)	2,117 (100.0)
女子	1 のんびり休養して鋭気を養う	51 (25.9)	34 (37.0)	20 (45.5)	11 (61.1)	116 (33.0)	116 (33.0)
	2 家族、友人、知人との交流を楽しむ	93 (47.2)	35 (38.0)	15 (34.1)	4 (22.2)	147 (41.9)	147 (41.9)
	3 自然に親しむ	7 (3.6)	1 (1.1)	2 (4.5)	2 (11.1)	12 (3.4)	12 (3.4)
	4 知識や教養を高める	3 (1.5)	—	1 (2.3)	—	4 (1.1)	4 (1.1)
	5 スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ	42 (21.3)	22 (23.9)	6 (13.6)	1 (5.6)	71 (20.2)	71 (20.2)
	6 仕事に役立つ能力開発のための学習を行う	—	—	—	—	—	—
	7 地域・社会的活動やボランティア活動を行う	1 (0.5)	—	—	—	1 (0.3)	1 (0.3)
	合 計	197 (100.0)	92 (100.0)	44 (100.0)	18 (100.0)	351 (100.0)	505 (100.0)

注1) () 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

人」は有意に少なくなっている。40～49歳においては「家族」が有意に多く、「職場の友人」「職場以外の友人」は少なくなっている。50歳以上については、「自分独り」が多くなっている。

女子全体についてみると、「家族」と答えた者が38.2%、「職場以外の友人」と答えた者が27.8%であり、「職場の友人」とのつきあいが15.6%を占めていた。

(㊦) 余暇を過ごす場所

表20は、「余暇を過ごす場所」について、年齢群との関連を見たものである。余暇を過ごす場所と年齢群の間について、男子で有意な関連が見られた。

男子の「余暇を過ごす場所」については、「屋外」が65.7%、以下「(自分の部屋以外の)屋内」20.2%、「自分の部屋」14.1%となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「自分の部屋」が有意に多く、「屋外」は有意に少なくなっている。

表18 仕事と余暇の関係

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	余暇を楽しむ	73 (30.0)	74 (23.8)	85 (20.2)	35 (16.2)	267 (22.4)
	両方大切	161 (66.3)	231 (74.3)	312 (74.1)	165 (76.4)	869 (73.0)
	仕事が大切	9 (3.7)	6 (1.9)	24 (5.7)	16 (7.4)	55 (4.6)
	合計	243 (100.0)	311 (100.0)	421 (100.0)	216 (100.0)	1,191 (100.0)
女子	余暇を楽しむ	91 (46.0)	35 (37.6)	10 (22.2)	3 (16.7)	139 (39.3)
	両方大切	104 (52.5)	56 (60.2)	32 (71.1)	9 (50.0)	201 (56.8)
	仕事が大切	3 (1.5)	2 (2.2)	3 (6.7)	6 (33.3)	14 (4.0)
	合計	198 (100.0)	93 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	354 (100.0)

注1) () 内は構成比を示す。

注2) 「余暇を楽しむ」は「余暇を楽しむことが最も大切である」「できるだけ余暇を楽しむ」、「仕事が大切」は「仕事が大切である」「できる限り仕事の方に力を注ぐ」、「両方大切」は「仕事も余暇も両方大切である」をそれぞれ示す。

注3) 無回答は除く。

表19 余暇を一緒に過ごす人

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	自分ひとり	55 (22.6) ▲[3.9]	22 (7.1) ▼[-4.4]	57 (13.5) [-0.8]	41 (19.0) ▲[2.0]	175 (14.7)
	家族	79 (32.5) ▼[-9.5]	230 (74.0) ▲[6.1]	281 (66.7) ▲[3.9]	116 (53.7) [-1.8]	706 (59.3)
	職場の友人	35 (14.4) ▲[3.9]	24 (7.7) [-0.4]	25 (5.9) ▼[-2.2]	15 (6.9) [-0.8]	99 (8.3)
	職場以外の友人	74 (30.5) ▲[5.8]	35 (11.3) ▼[-3.5]	58 (13.8) ▼[-2.6]	44 (20.4) [1.1]	211 (17.7)
	合計	243 (100.0)	311 (100.0)	421 (100.0)	216 (100.0)	1,191 (100.0)
女子	自分ひとり	37 (18.8)	15 (16.1)	7 (15.6)	6 (33.3)	65 (18.4)
	家族	42 (21.3)	56 (60.2)	29 (64.4)	8 (44.4)	135 (38.2)
	職場の友人	41 (20.8)	11 (11.8)	3 (6.7)	—	55 (15.6)
	職場以外の友人	77 (39.1)	11 (11.8)	6 (13.3)	4 (22.2)	98 (27.8)
	合計	197 (100.0)	93 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	353 (100.0)

$\chi^2(9)=120.013^{***}$

注1) () 内は構成比を示し, [] 内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

表20 余暇を過ごす場所

性別	区分	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
男子	自分の部屋	66 (27.0) ▲[6.5]	36 (11.6) [-1.5]	52 (12.4) [-1.2]	13 (6.1) ▼[-3.7]	167 (14.1)
	屋 内	41 (16.8) [-1.5]	57 (18.3) [-1.0]	91 (21.8) [1.0]	51 (23.8) [1.5]	240 (20.2)
	屋 外	137 (56.1) ▼[-3.5]	218 (70.1) [1.9]	275 (65.8) [0.0]	150 (70.1) [1.5]	780 (65.7)
	合 計	244 (100.0)	311 (100.0)	418 (100.0)	214 (100.0)	1,187 (100.0)
	自分の部屋	58 (29.3)	28 (30.4)	6 (13.3)	7 (38.9)	99 (28.0)
女子	屋 内	47 (23.7)	30 (32.6)	20 (44.4)	5 (27.8)	102 (28.9)
	屋 外	93 (47.0)	34 (37.0)	19 (42.2)	6 (33.3)	152 (43.1)
	合 計	198 (100.0)	92 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	353 (100.0)

 $\chi^2(6)=49.873^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「屋内」は自分の部屋以外の屋内を示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

50歳以上では「自分の部屋」が有意に少ないことが分かる。

(イ) 余暇の満足度

表21は, 「余暇の満足度」について, 「満足」「やや満足」の回答を「満足」, 「不満」「やや不満」の回答を「不満」とし, 「どちらでもない」を合わせて3群に分類し, 年齢群との関連を見たものである。余暇の満足度と年齢群の間について, 男子で有意な関連が見られた。

男子の「余暇の満足度」については, 「満足」が42.8%, 以下「どちらでもない」29.2%, 「不満」28.0%, となっている。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 30~39歳では「不満」が有意に多く, 50歳以上では「不満」が有意に少なくなっている。

女子については, 「不満」の割合がすべての年齢群において, 男子に比べて多いことが

分かる。

(ロ) 余暇に対する不満の理由

表22は, 余暇の満足度に関して, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の39.8%)のうち, 「余暇に対する不満の理由」に関する10項目について, 年齢群との関連を見たものである。なお, 「あてはまる」の回答を「肯定」, 「あてはまらない」の回答を「否定」とした。余暇に対する不満の理由と年齢群の関係を見たところ, 男子は4項目について有意な関連が見られた。

「1 平日の自由時間が少ない」については, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の39.8%)のうち, 「肯定」が43.1%, 「否定」は56.9%である。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 30~39歳については「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なくなっている。18~29歳は「肯定」

表21 余暇の満足度

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	満足	93 (38.3) [-1.6]	123 (39.5) [-1.4]	191 (45.5) [1.4]	102 (47.4) [1.5]	509 (42.8)
		78 (32.1) [1.1]	86 (27.7) [-0.7]	109 (26.0) [-1.8]	74 (34.4) [1.9]	347 (29.2)
	不満足	72 (29.6) [0.6]	102 (32.8) ▲[2.2]	120 (28.6) [0.3]	39 (18.1) ▼[-3.6]	333 (28.0)
	合計	243 (100.0)	311 (100.0)	420 (100.0)	215 (100.0)	1,189 (100.0)
	合計	76 (38.4)	27 (29.0)	12 (26.7)	4 (22.2)	119 (33.6)
女子	どちらでもない	46 (23.2)	17 (18.3)	15 (33.3)	5 (27.8)	83 (23.4)
	不満足	76 (38.4)	49 (52.7)	18 (40.0)	9 (50.0)	152 (42.9)
	合計	198 (100.0)	93 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	354 (100.0)
	合計	76 (38.4)	27 (29.0)	12 (26.7)	4 (22.2)	119 (33.6)

$\chi^2(6)=18.494^{**}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。
 注2) 「満足」は「満足」「やや満足」を示し, 「不満」は「不満」「やや不満」を示す。
 注3) **は有意水準1%未満で有意差があることを示す。
 注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。
 注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)
 注6) 無回答は除く。

が有意に少なく, 「否定」は有意に多いことが分かった。

「2 休日が少ない」については, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の39.8%)のうち, 「肯定」が40.4%, 「否定」は59.6%である。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 50歳以上は「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多いことが分かる。

「7 お金がかかりすぎる」については, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の39.8%)のうち, 「肯定」が19.0%, 「否定」は81.0%である。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 50歳以上は「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なくなっている。30～39歳では「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多いことが分かった。

「10 家族などとの時間が合わない」につ

いては, 「不満」「やや不満」と回答した者(調査対象者全体の39.8%)のうち, 「肯定」が30.7%, 「否定」は69.3%である。残差分析を行い, 年齢群に注目すると, 40～49歳については「肯定」が有意に多く, 「否定」は有意に少なくなっている。30～39歳では「肯定」が有意に少なく, 「否定」は有意に多いことが分かった。

戊) 現在の休日数について

表23は, 「現在の休日数」について, 「少ない」「やや少ない」の回答を「少ない」, 「多い」「やや多い」の回答を「多い」とし, 「現在の程度でよい」を合わせて3群に分類し, 年齢群との関連を見たものである。男女とも半数以上が「少ない」と回答している。男子の「現在の休日数」については, 「少ない」が59.2%, 「現在の程度でよい」39.6%, 「多い」1.2%, となっている。

表22 余暇に対する不満の理由

質問項目	区分	男子					女子				
		18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計	18~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳以上	合計
1 平日の自由時間が少ない	肯定	23 (31.9) ▼[-2.2]	55 (53.9) ▲[2.7]	53 (44.5) [0.4]	12 (30.8) [-1.7]	143 (43.1)	21 (27.6)	30 (61.2)	9 (50.0)	7 (70.0)	67 (43.8)
	否定	49 (68.1) ▲[2.2]	47 (46.1) ▼[-2.7]	66 (55.5) [-0.4]	27 (69.2) [1.7]	189 (56.9)	55 (72.4)	19 (38.8)	9 (50.0)	3 (30.0)	86 (56.2)
$\chi^2(3)=11.044^*$											
2 休日が少ない	肯定	33 (45.8) [1.1]	49 (48.0) [1.9]	43 (36.1) [-1.2]	9 (23.1) ▼[-2.3]	134 (40.4)	16 (21.1)	10 (20.4)	7 (38.9)	-	33 (21.6)
	否定	39 (54.2) [-1.1]	53 (52.0) [-1.9]	76 (63.9) [1.2]	30 (76.9) ▲[2.3]	198 (59.6)	60 (78.9)	39 (79.6)	11 (61.1)	10 (100.0)	120 (78.4)
$\chi^2(3)=9.117^*$											
3 長期休暇がない	肯定	55 (76.4)	69 (67.6)	77 (64.7)	26 (66.7)	227 (68.4)	39 (51.3)	24 (49.0)	12 (66.7)	6 (60.0)	81 (52.9)
	否定	17 (23.6)	33 (32.4)	42 (35.3)	13 (33.3)	105 (31.6)	37 (48.7)	25 (51.0)	6 (33.3)	4 (40.0)	72 (47.1)
$\chi^2(3)=2.957$											
4 休暇、休日の予定が立てにくい	肯定	41 (56.9)	58 (56.9)	70 (58.8)	22 (56.4)	191 (57.5)	61 (80.3)	35 (71.4)	16 (88.9)	7 (70.0)	119 (77.8)
	否定	31 (43.1)	44 (43.1)	49 (42.1)	17 (43.6)	141 (42.5)	15 (19.7)	14 (28.6)	2 (11.1)	3 (30.0)	34 (22.2)
$\chi^2(3)=0.130$											
5 家事・育児に時間がかる	肯定	1 (1.4)	24 (23.5)	9 (7.6)	-	34 (10.2)	4 (5.3)	19 (38.8)	9 (50.0)	1 (10.0)	33 (21.6)
	否定	71 (98.6)	78 (76.5)	110 (92.4)	39 (100.0)	298 (89.8)	72 (94.7)	30 (61.2)	9 (50.0)	9 (90.0)	120 (78.4)
-											
6 介護に時間がかる	肯定	1 (1.4)	3 (2.9)	3 (2.5)	4 (10.3)	11 (3.3)	-	-	-	2 (20.0)	2 (1.3)
	否定	71 (98.6)	99 (97.1)	116 (97.5)	35 (89.7)	321 (96.7)	76 (100.0)	49 (100.0)	18 (100.0)	8 (80.0)	151 (98.7)
-											
7 お金がかかりすぎる	肯定	10 (13.9) [-1.2]	12 (11.8) ▼[-2.2]	28 (23.5) [1.6]	13 (33.3) ▲[2.4]	63 (19.0)	4 (5.3)	4 (8.2)	1 (5.6)	-	9 (5.9)
	否定	62 (86.1) [1.2]	90 (88.2) ▲[2.2]	91 (76.5) [-1.6]	26 (66.7) ▼[-2.4]	269 (81.0)	72 (94.7)	45 (91.8)	17 (94.4)	10 (100.0)	144 (94.1)
$\chi^2(3)=11.495^{**}$											
8 近くに適当な施設がない	肯定	11 (15.3)	17 (16.7)	18 (15.1)	6 (15.4)	52 (15.7)	15 (19.7)	10 (20.4)	1 (5.6)	-	26 (17.0)
	否定	61 (84.7)	85 (83.3)	101 (84.9)	33 (84.6)	280 (84.3)	61 (80.3)	39 (79.6)	17 (94.4)	10 (100.0)	127 (83.0)
-											
9 利用したい時間に施設が空いていない	肯定	2 (2.8)	9 (8.8)	7 (5.9)	4 (10.3)	22 (6.6)	4 (5.3)	5 (10.2)	3 (16.7)	-	12 (7.8)
	否定	70 (97.2)	93 (91.2)	112 (94.1)	35 (89.7)	310 (93.4)	72 (94.7)	44 (89.8)	15 (83.3)	10 (100.0)	141 (92.2)
-											
10 家族などとの時間が合わない	肯定	20 (27.8) [-0.6]	22 (21.6) ▼[-2.4]	45 (37.8) ▲[2.1]	15 (38.5) [1.1]	102 (30.7)	31 (40.8)	18 (36.7)	12 (66.7)	1 (10.0)	62 (40.5)
	否定	52 (72.2) [0.6]	80 (78.4) ▲[2.4]	74 (62.2) ▼[-2.1]	24 (61.5) [-1.1]	230 (69.3)	45 (59.2)	31 (63.3)	6 (33.3)	9 (90.0)	91 (59.5)
$\chi^2(3)=8.219^*$											

注1) ()内は構成比を示し、[]内は調整済み残差を示す。

注2) 「肯定」は「あてはまる」を示し、「否定」は「あてはまらない」を示す。

注3) *は有意水準5%、**は有意水準1%未満で有意差があることを示す。

注4) 男子の項目5、6、8、9、女子の項目については、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表23 現在の休日数

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	少ない	164 (67.2)	207 (67.0)	236 (56.6)	92 (43.6)	699 (59.2)
	現在の程度でよい	75 (30.7)	101 (32.7)	178 (42.7)	114 (54.0)	468 (39.6)
	多い	5 (2.0)	1 (0.3)	3 (0.7)	5 (2.4)	14 (1.2)
	合計	244 (100.0)	309 (100.0)	417 (100.0)	211 (100.0)	1,181 (100.0)
女子	少ない	124 (62.9)	58 (62.4)	23 (53.5)	6 (33.3)	211 (60.1)
	現在の程度でよい	73 (37.1)	34 (36.6)	20 (46.5)	12 (66.7)	139 (39.6)
	多い	—	1 (1.1)	—	—	1 (0.3)
	合計	197 (100.0)	93 (100.0)	43 (100.0)	18 (100.0)	351 (100.0)

注1) ()内は構成比を示す。

注2) 「少ない」は「少ない」「やや少ない」を示し、「多い」は「多い」「やや多い」を示す。

注3) 無回答は除く。

女子の「現在の休日数」については、「少ない」が60.1%、「現在の程度でよい」39.6%と同様の傾向である。

男女ともに「少ない」と答えた者は、年齢が上がるごとに、割合が少なくなっているが、「現在の程度でよい」と答えた者は、年齢とともに増加する傾向にある。

㉔ 希望する連続休暇日数

表24は、「希望する連続休暇日数」について、年齢群との関連を見たものである。希望する連続休暇日数と年齢群の間について、男子においては有意な関連が見られた。

男子についてみると、「希望する連続休暇日数」については、「7日」が35.0%、以下「10日」29.7%、「5日」17.4%、「3日」9.9%、「20日以上」8.0%の順である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、39歳以下では、「10日」について「あてはまる」が有意に多く、18～29歳は「3日」が、30～39歳では「5日」がそれぞれ有意に少ないことが分かった。50歳以上で、「3日」及び「5日」に「あてはまる」が有意に多く、「10日」及び「20日以上」

については「あてはまる」は有意に少なくなっている。

女子については、「10日」は30.1%、以下「7日」25.9%、「3日」17.2%、「5日」16.3%、「20日以上」10.4%の順であった。

オ 生活一般に関する調査

㉔ 職場内でのクラブ活動

表25は、「職場内でのクラブ活動」について、「いつも参加している」「ときどき参加している」の回答を「参加」、「まったく参加していない」「あまり参加していない」の回答を「不参加」の2群に分類し、年齢群との関連を見たものである。職場内でのクラブ活動と年齢群の間について、男子においては有意な関連が見られた。

男子の「職場内でのクラブ活動」については、「参加」が63.4%、「不参加」が36.6%である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、男子の39歳以下については、「参加」が有意に多く、「不参加」は有意に少ないことが分かる。40歳以上については「参加」が有意に少なく、「不参加」は有意に多いことが

分かる。

女子については、「不参加」が57.6%、「参加」が42.4%となっている。

(イ) 刑務官生活全般に対する満足度

表26は、「刑務官生活全般に対する満足度」について、「大いに満足」「満足」の回答を「満足」、「とても不満」「不満」の回答を「不満」とし、「どちらとも言えない」を合わせて3群に分類し、年齢群との関連を見たものである。刑務官生活全般に対する満足度と年齢群の間について、男子は有意な関連が

見られた。

男子については、「どちらとも言えない」が44.7%、以下「満足」41.4%、「不満」13.9%である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、50歳以上は「満足」が有意に多く、「不満」は有意に少なくなっている。39歳以下については「不満」が有意に多いことが分かる。

女子全体においては、年齢群別に有意差が見られなかったが、年齢が上がるごとに「満足」の割合が増え、「不満」の割合が減っている。

表24 希望する連続休暇日数

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	3日	16 (6.6) ▼[-2.0]	27 (8.7) [-0.9]	42 (10.0) [0.1]	33 (15.3) ▲[2.9]	118 (9.9)
	5日	36 (14.8) [-1.2]	40 (12.9) ▼[-2.5]	69 (16.5) [-0.6]	62 (28.8) ▲[4.9]	207 (17.4)
	7日	84 (34.4) [-0.2]	109 (35.0) [0.0]	152 (36.3) [0.7]	71 (33.0) [-0.7]	416 (35.0)
	10日	85 (34.8) ▲[2.0]	107 (34.4) ▲[2.1]	120 (28.6) [-0.6]	41 (19.1) ▼[-3.8]	353 (29.7)
	20日以上	23 (9.4) [0.9]	28 (9.0) [0.8]	36 (8.6) [0.6]	8 (3.7) ▼[-2.6]	95 (8.0)
	合計	244 (100.0)	311 (100.0)	419 (100.0)	215 (100.0)	1,189 (100.0)
	合計	$\chi^2(12)=50.085^{***}$				
女子	3日	36 (18.1)	13 (14.0)	9 (20.0)	3 (16.7)	61 (17.2)
	5日	37 (18.6)	10 (10.8)	5 (11.1)	6 (33.3)	58 (16.3)
	7日	41 (20.6)	30 (32.2)	15 (33.3)	6 (33.3)	92 (25.9)
	10日	60 (30.2)	30 (32.3)	14 (31.1)	3 (16.7)	107 (30.1)
	20日以上	25 (12.6)	10 (10.8)	2 (4.4)	—	37 (10.4)
	合計	199 (100.0)	93 (100.0)	45 (100.0)	18 (100.0)	355 (100.0)

注1) ()内は構成比を示し、[]内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

表25 職場内でのクラブ活動

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	参加	174 (71.3) ▲[2.9]	212 (68.2) ▲[2.0]	247 (59.2) ▼[-2.2]	119 (55.6) ▼[-2.6]	752 (63.4)
	不参加	70 (28.7) ▼[-2.9]	99 (31.8) ▼[-2.0]	170 (40.8) ▲[2.2]	95 (44.4) ▲[2.6]	434 (36.6)
	合計	244 (100.0)	311 (100.0)	417 (100.0)	214 (100.0)	1,186 (100.0)
女子	参加	87 (43.7)	33 (36.3)	18 (42.9)	10 (58.8)	148 (42.4)
	不参加	112 (56.3)	58 (63.7)	24 (57.1)	7 (41.2)	201 (57.6)
	合計	199 (100.0)	91 (100.0)	42 (100.0)	17 (100.0)	349 (100.0)

$\chi^2(3)=18.350^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「参加」は「いつも参加している」「ときどき参加している」を示し, 「不参加」は「まったく参加していない」「あまり参加していない」を示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 「職場にクラブ活動がない」の9名については, 分析対象外とした。

注7) 無回答は除く。

表26 刑務官生活全般に対する満足度

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	満足	91 (37.3) [-1.5]	122 (39.2) [-0.9]	177 (42.1) [0.4]	102 (47.7) ▲[2.1]	492 (41.4)
	どちらとも 言えない	108 (44.3) [-0.2]	135 (43.4) [-0.6]	191 (45.5) [0.4]	98 (45.8) [0.3]	532 (44.7)
	不満	45 (18.4) ▲[2.3]	54 (17.4) ▲[2.1]	52 (12.4) [-1.1]	14 (6.5) ▼[-3.4]	165 (13.9)
	合計	244 (100.0)	311 (100.0)	420 (100.0)	214 (100.0)	1,189 (100.0)
女子	満足	30 (15.1)	16 (17.2)	6 (14.3)	10 (55.6)	62 (17.6)
	どちらとも 言えない	119 (59.8)	51 (54.8)	29 (69.0)	7 (38.9)	206 (58.5)
	不満	50 (25.1)	26 (28.0)	7 (16.7)	1 (5.6)	84 (23.9)
	合計	199 (100.0)	93 (100.0)	42 (100.0)	18 (100.0)	352 (100.0)

$\chi^2(6)=19.036^{**}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「満足」は「大いに満足」「満足」を示し, 「不満」は「とても不満」「不満」を示す。

注3) **は有意水準1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表27 研修の内容・制度に対する満足度

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	満足	57 (23.6) ▲[3.3]	35 (11.3) ▼[-2.9]	64 (15.5) [-0.7]	39 (18.4) [0.8]	195 (16.5)
	どちらとも 言えない	120 (49.6) ▼[-2.5]	183 (58.8) [0.9]	229 (55.3) [-0.7]	136 (64.2) ▲[2.4]	668 (56.7)
	不満	65 (26.9) [0.0]	93 (29.9) [1.4]	121 (29.2) [1.4]	37 (17.5) ▼[-3.4]	316 (26.8)
	合計	242 (100.0)	311 (100.0)	414 (100.0)	212 (100.0)	1,179 (100.0)
	満足	44 (22.2)	6 (6.5)	1 (2.4)	7 (38.9)	58 (16.5)
女子	どちらとも 言えない	108 (54.5)	60 (64.5)	28 (66.7)	10 (55.6)	206 (58.7)
	不満	46 (23.2)	27 (29.0)	13 (31.0)	1 (5.6)	87 (24.8)
	合計	198 (100.0)	93 (100.0)	42 (100.0)	18 (100.0)	351 (100.0)
	満足	44 (22.2)	6 (6.5)	1 (2.4)	7 (38.9)	58 (16.5)

 $\chi^2(6)=26.755^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「満足」は「大いに満足」「満足」を示し, 「不満」は「とても不満」「不満」を示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表28 住居形態

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	官舎	198 (81.1) ▲[11.7]	177 (56.9) ▲[3.8]	137 (32.5) ▼[-8.8]	56 (26.2) ▼[-7.0]	568 (47.7)
	官舎以外	46 (18.9) ▼[-11.7]	134 (43.1) ▼[-3.8]	284 (67.5) ▲[7.8]	158 (73.8) ▲[7.0]	622 (52.3)
	合計	244 (100.0)	311 (100.0)	421 (100.0)	214 (100.0)	1,190 (100.0)
女子	官舎	130 (65.3)	37 (39.8)	5 (11.9)	5 (27.8)	177 (50.3)
	官舎以外	69 (34.7)	56 (60.2)	37 (88.1)	13 (72.2)	175 (49.7)
	合計	199 (100.0)	93 (100.0)	42 (100.0)	18 (100.0)	352 (100.0)

 $\chi^2(3)=198.537^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

(ウ) 研修の内容・制度に対する満足度

表27は、「研修の内容・制度に対する満足度」について、「満足」「大いに満足」の回答を「満足」、「とても不満」「不満」の回答を「不満」とし、「どちらとも言えない」を合わせて3群に分類し、年齢群との関連を見たものである。研修の内容・制度についての満足度と年齢群の間について、男子は有意な関連が見られた。

男子については、「どちらとも言えない」が56.7%、以下「不満」26.8%、「満足」16.5%である。残差分析を行い、年齢群に注目すると、18～29歳は「満足」が有意に多く、「どちらとも言えない」は有意に少なかった。30～39歳は「満足」が有意に少なかった。50歳以上は「どちらとも言えない」が有意に多く、「不満」は有意に少なかった。

(エ) 住居形態

表28は、「住居形態」と年齢群との関連を見たものである。「住居形態」と年齢群との関係について、男子においては、有意差が見られた。

男子については、「官舎」が47.7%、「官舎以外」は52.3%となっている。残差分析を行い、年齢群に注目すると、39歳以下は「官舎」が有意に多く、「官舎以外」は有意に少なかった。40歳以上においては、「官舎以外」が有意に多く、「官舎」は有意に少なかった。

(オ) 官舎生活の満足度

表29は、官舎に住んでいる者のうち、「官舎生活の満足度」と年齢との関連を見たものである。なお、「大いに満足」「満足」の回答を「満足」、「大いに不満」「不満」の回答を「不満」とし、「どちらとも言えない」を合わせて3群に分類し、「官舎生活の満足度」と年齢群との間において、関連を見たものである。男子においては有意な関連が見られた。

男子については、「不満」が33.9%、以下「どちらとも言えない」33.3%、「満足」32.8%となっている。年齢群に注目すると、18～29

歳は「不満」が有意に多く、「どちらとも言えない」は有意に少なかった。50歳以上では、「満足」が有意に多く、「不満」は有意に少なかった。

(カ) 単身赴任経験の有無

表30は、「単身赴任経験の有無」について、年齢との関連を見たものである。「単身赴任経験の有無」と年齢群の間について、男子は有意な関連が見られた。年齢群に注目すると、39歳以下は「なし」が有意に多く、「あり」は有意に少なかった。40歳以上では、「あり」が有意に多く、「なし」は有意に少なかった。

(キ) 単身赴任に対する希望

表31は、「単身赴任に対する希望」について、「したくない」「できればしたくない」の回答を「したくない」、「してもいい」「場合によってはしてもいい」の回答を「してもいい」とし、「どちらでもない」と合わせて3群に分類し、年齢群との関連を見たものである。「単身赴任に対する希望」と年齢群の間について、男子は有意な関連が見られた。年齢群に注目すると、18～29歳以下は「してもいい」が有意に多く、「したくない」は有意に少なかった。40～49歳以下では、「したくない」が有意に多く、「してもいい」は有意に少なかった。

(2) 職業に関する意識

ア 職業志向尺度

職業志向尺度の平均値、標準偏差を表32に示す。職業志向尺度の α 係数（文末の※を参照）は0.7007であり、ある程度の内部一貫性があることが示された。職業志向尺度について、性別（男女）×年齢群（4群）の条件からなる2元配置の分散分析を実施した。その結果、性別と年齢群の間で交互作用が有意であったため（ $F(1, 1539) = 3.091, P < .05$ ）、単純主効果検定を行った。主な結果は、以下のとおりである。

- ① 性別における単純主効果が有意であり（ $F(1, 1539) = 14.738, P < .001$ ）、女子

表29 官舎生活の満足度

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	満足	59 (29.8) [-1.1]	60 (33.9) [0.4]	42 (30.9) [-0.5]	25 (44.6) ▲[2.0]	186 (32.8)
	どちらとも 言えない	53 (26.8) ▼[-2.4]	65 (36.7) [1.2]	49 (36.0) [0.8]	22 (39.3) [1.0]	189 (33.3)
	不満	86 (43.4) ▲[3.5]	52 (29.4) [-1.5]	45 (33.1) [-0.2]	9 (16.1) ▼[-3.0]	192 (33.9)
	合計	198 (100.0)	177 (100.0)	136 (100.0)	56 (100.0)	567 (100.0)
	満足	37 (28.7)	16 (43.2)	3 (60.0)	2 (40.0)	58 (33.0)
女子	どちらとも 言えない	37 (28.7)	11 (29.7)	1 (20.0)	3 (60.0)	52 (29.5)
	不満	55 (42.6)	10 (27.0)	1 (20.0)	—	66 (37.5)
	合計	129 (100.0)	37 (100.0)	5 (100.0)	5 (100.0)	176 (100.0)
	満足	37 (28.7)	16 (43.2)	3 (60.0)	2 (40.0)	58 (33.0)

 $\chi^2(6)=18.885^{**}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「満足」は「大いに満足」「満足」を示し, 「不満」は「とても不満」「不満」を示す。

注3) **は有意水準1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表30 単身赴任経験の有無

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	あり	12 (5.2) ▼[-2.9]	12 (4.0) ▼[-4.2]	57 (13.8) ▲[2.9]	38 (18.2) ▲[4.1]	119 (10.3)
	なし	219 (94.8) ▲[2.9]	288 (96.0) ▲[4.2]	357 (86.2) ▼[-2.9]	171 (81.8) ▼[-4.1]	1,035 (89.7)
	合計	231 (100.0)	300 (100.0)	414 (100.0)	209 (100.0)	1,154 (100.0)
	あり	20 (10.6)	8 (8.8)	4 (9.5)	3 (17.6)	35 (10.4)
女子	なし	168 (89.4)	83 (91.2)	38 (90.5)	14 (82.4)	303 (89.6)
	合計	188 (100.0)	91 (100.0)	42 (100.0)	17 (100.0)	338 (100.0)
	あり	20 (10.6)	8 (8.8)	4 (9.5)	3 (17.6)	35 (10.4)

 $\chi^2(3)=38.807^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「あり」は「単身赴任をしたことがある」を示し, 「なし」は「単身赴任をしたことがない」を示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表31 単身赴任に対する希望

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子		185	264	372	186	1,007
	したくない	(76.4)	(85.4)	(88.6)	(86.9)	(85.0)
		▼[-4.2]	[0.3]	▲[2.6]	[0.9]	
	どちらでもない	19	9	17	11	56
	(7.9)	(2.9)	(4.0)	(5.1)	(4.7)	
	[2.6]	[-1.7]	[-0.8]	[0.3]		
	でもいい	38	36	31	17	122
	(15.7)	(11.7)	(7.4)	(7.9)	(10.3)	
	▲[3.1]	[0.9]	▼[-2.4]	[-1.3]		
	合計	242	309	420	214	1,185
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
女子		131	74	33	15	253
	したくない	(67.5)	(80.4)	(78.6)	(83.3)	(73.1)
	どちらでもない	34	9	3	1	47
	(17.5)	(9.8)	(7.1)	(5.6)	(13.6)	
	でもいい	29	9	6	2	46
	(14.9)	(9.8)	(14.3)	(11.1)	(13.3)	
	合計	194	92	42	18	346
	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

$\chi^2(3)=22.490^{***}$

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) 「したくない」は「したくない」「できればしたくない」を示し, 「でもいい」は「でもいい」「場合によってはでもいい」を示す。

注3) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注4) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注5) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注6) 無回答は除く。

表32 職業志向尺度得点

性別	群別	平均	標準偏差
男子	18～29歳	25.14	3.60
	30～39歳	25.19	3.40
	40～49歳	25.82	3.33
	50歳以上	24.98	3.54
	合計	25.34	3.48
女子	18～29歳	23.70	3.55
	30～39歳	23.14	3.61
	40～49歳	23.98	3.76
	50歳以上	25.82	3.03
	合計	23.70	3.60

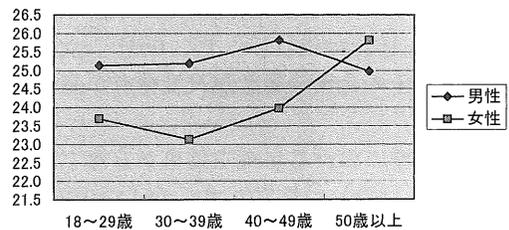


図1 職業志向尺度

尺度得点が高く示された。

図1から, 職業志向尺度得点は, 男性の「40～49歳」まで上昇し, それ以降は下降している。また, 女子は「18～29歳」から「30～39歳」においては数値が下がっているが, 「30～39歳」以降は上昇していることが分かる。企業帰属意識尺度と同様に年齢群の「40～49

よりも男子の職業志向尺度得点が高く示された。

- ② 年齢群における単純主効果が有意であり (F(3, 1539)=2.990, P<.05), LSD法により多重比較を行うと, 40～49歳が18～29歳, 30～39歳及び50歳以上よりも職業志向

表33 企業帰属意識尺度得点

性別	群別	平均	標準偏差
男子	18～29歳	38.70	6.76
	30～39歳	38.96	7.24
	40～49歳	40.26	6.92
	50歳以上	40.65	6.85
	合計	39.65	7.02
女子	18～29歳	33.19	6.71
	30～39歳	34.86	5.68
	40～49歳	37.61	7.13
	50歳以上	41.50	6.45
	合計	34.59	6.82

歳」と「50歳以上」の間において男女間の得点が逆転している。

イ 企業帰属意識尺度

企業帰属意識尺度の平均値、標準偏差を表33に示す。 α 係数は0.7896であり、ある程度の内部一貫性があることが示された。企業帰属意識尺度について、性別（男女）×年齢群（4群）の条件からなる2元配置の分散分析を実施した。その結果、性別と年齢群の間で交互作用が有意であったため（ $F(1, 1526) = 4.664, P < .01$ ）、単純主効果検定を行った。主な結果は、以下のとおりである。

- ① 性別における単純主効果が有意であり（ $F(1, 1526) = 24.475, P < .001$ ）、女子よりも男子の企業帰属意識尺度得点が高く示された。
- ② 年齢群における単純主効果が有意であり（ $F(3, 1526) = 15.797, P < .05$ ）LSD法により多重比較を行うと、50歳以上及び40～49歳は30～39歳よりも有意に大きく、さらに30～39歳は18～29歳よりも有意に大きい企業帰属意識尺度得点が高く示された。

図2から、企業帰属意識尺度の得点は、男女ともに年齢が上がるとともに上昇しており、年齢群の「40～49歳」と「50歳以上」の間において男女間の得点が逆転していることが分かる。

ウ 職場に対する不満

「職場の満足度」に関して、「不満」「や

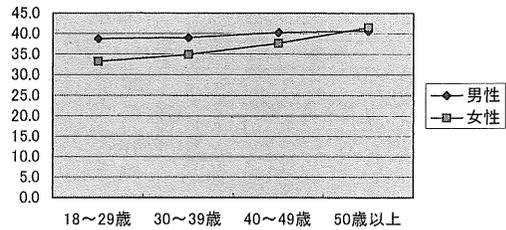


図2 企業帰属意識尺度得点

や不満」と回答した男女職員に対して、どのような要因が結果に影響を及ぼしているかを明らかにするために、表12において職場に不満の理由を構成している職務ストレス項目及び本人の基本的属性を説明変数とし、表34の「職場に不満な職員内訳」のうち全体の「不満」及び「やや不満」を目的変数として階層的重回帰分析を行った。調査対象者は表34に示すとおり、職場の満足度（表11）において「不満」あるいは「やや不満である」を選択した611名（全体の39.5%）である。説明変数のうち、表12にある「その他」は内容が検討できないため除外した。性別は「男性」を1、「女性」を2とし、同居については、「なし」を1、「あり」を2、官舎についても同居と同様にカテゴリカルデータに変換した。年齢は調査時年齢をそのまま投入した。表35は、多重共線性 (multicollinearity) が起きないように、共線性の許容度の条件を2未満として行った階層的重回帰分析の結果である。各説明変数の標準回帰係数と偏回帰係数はそれぞれ目的変数に対する寄与の程度を示している。すなわち、ステップ1は、ストレス項目のみ投入したものであり「よい上司に恵まれないから」は.214 ($p < .001$)、「仕事自体に生きがいがない」は.144 ($p < .001$)、「現在の地位や仕事が気に入らないから」は.140 ($p < .001$)、「自分の能力を発揮できる場所がないから」は.115 ($p < .01$)の順で目的変数である職場の不満度がそれぞれ影響

表34 職場に不満な職員内訳

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	不満	21 (22.1)	38 (30.4)	33 (21.0)	16 (22.9)	108 (24.2)
	やや不満	74 (77.9)	87 (69.6)	124 (79.0)	54 (77.1)	339 (75.8)
	合計	95 (100.0)	125 (100.0)	157 (100.0)	70 (100.0)	447 (100.0)
女子	不満	26 (28.0)	13 (28.3)	4 (19.0)	1 (25.0)	44 (26.8)
	やや不満	67 (72.0)	33 (71.7)	17 (81.0)	3 (75.0)	120 (73.2)
	合計	93 (100.0)	46 (100.0)	9 (100.0)	4 (100.0)	164 (100.0)
全体	不満	47 (25.0)	51 (29.8)	37 (20.8)	17 (23.0)	152 (24.9)
	やや不満	141 (75.0)	120 (70.2)	141 (79.2)	57 (77.0)	459 (75.1)
	合計	188 (100.0)	171 (100.0)	178 (100.0)	74 (100.0)	611 (100.0)

注1) ()内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表35 職場が不満であるに対する階層的重回帰分析

説明変数	ステップ1		ステップ2	
	標準偏回帰係数	偏相関係数	標準偏回帰係数	偏相関係数
仕事自体に生きがいがない	0.144***	0.148	0.153***	0.158
収入が少ない	0.038	0.040	0.031	0.033
現在の地位や仕事が気に入らないから	0.140***	0.141	0.128**	0.128
職場の安定性がないから	-0.020	-0.021	-0.016	-0.017
よい上司に恵まれないから	0.214***	0.222	0.222***	0.230
よい同僚に恵まれないから	0.020	0.021	0.006	0.006
職場の施設や設備が不十分だから	-0.022	-0.024	-0.009	-0.009
自分の能力を発揮する場がないから	0.115**	0.115	0.137***	0.137
労働時間や休暇に不満があるから	0.088	0.092	0.094*	0.097
昇給や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから	0.002	0.002	0.008	0.009
被收容者に問題が多いから	0.063	0.067	0.068	0.071
性別			0.000	0.000
年齢			-0.020	-0.017
同居あり			0.008	0.007
官舎あり			-0.038	-0.034
重相関係数 (R)	0.380		0.397	
F検定	6.736***		6.736***	

注) **は有意水準1%, ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

表36 余暇を過ごす場所と余暇を一緒に過ごす人

性別	区分	自分の部屋	屋内	屋外	合計	
男子	自分ひとり	64	23	89	176	$\chi^2(6)=106.897^{***}$
		(38.3)	(9.5)	(11.4)	(14.5)	
		▲[9.3]	▼[-2.6]	▼[-4.6]		
	家族	74	178	455	707	
		(44.3)	(73.3)	(58.1)	(59.3)	
		▼[-4.2]	▲[5.0]	[-1.1]		
職場の友人	11	11	77	99		
	(6.6)	(4.5)	(9.8)	(8.3)		
	[-0.9]	▼[-2.4]	▲[2.7]			
職場以外の友人	18	31	162	211		
	(10.8)	(12.8)	(20.7)	(17.7)		
	▼[-2.5]	▼[-2.3]	▲[3.8]			
合計		167	243	783	1,193	
		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	
女性	自分ひとり	44	6	15	65	
		(44.0)	(5.9)	(9.90)	(18.40)	
	家族	27	54	53	134	
		(27.0)	(53.5)	(34.9)	(38.0)	
職場の友人	12	10	33	55		
	(12.0)	(9.9)	(21.7)	(15.6)		
職場以外の友人	17	31	51	99		
	(17.0)	(30.7)	(33.6)	(28.0)		
合計		100	101	152	353	
		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	

注1) ()内は構成比を示し, []内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は, 期待値算出にあたり, χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果, ▲は期待値より有意に多く, ▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

を受けていることが分かる。ステップ2は, ステップ1の説明変数に本人の属性までを含めて説明変数に投入したものである。結果としては, 「よい上司に恵まれないから」は.222 ($p < .001$), 「仕事自体に生きがいがない」は.153 ($p < .001$), 「自分の能力を発揮できる場所がないから」は.137 ($p < .001$), 「現在の地位や仕事が気に入らないから」は.128 ($p < .01$), 「労働時間や休暇に不満があるから」.094 ($p < .05$), の順で目的変数である「職場の不満度」がそれぞれ影響を受けていることが分かる。重相関係数から, ステップ2の方が, モデルとしての適合性が高いことが分かる。

(3) 余暇に関する意識

ア 余暇を過ごす場所・人

表36は, 「余暇を過ごす場所」と「余暇を一緒に過ごす人」との関連を見たものである。

男子については, 「余暇を過ごす場所」と「余暇を一緒に過ごす人」の間に有意な関連が見られた。一緒に過ごす対象別に見ると, 「家族」が59.3%, 以下「職場以外の友人」17.7%, 「自分ひとり」14.5%, 「職場の友人」8.3%となっている。残差分析を行い, 「余暇を過ごす場所」に注目すると, 「自分の部屋」は, 「余暇を一緒に過ごす人」について, 「自分ひとり」が有意に多く, 「家族」「職場以外の友人」は有意に少なかった。「屋内」は,

「家族」が有意に多く、「自分独り」「職場の友人」及び「職場以外の友人」は有意に少なかった。「屋外」は、「職場の友人」「職場以外の友人」が有意に多く、「自分独り」は有意に少なかった。

イ 連続休暇希望日数と余暇の満足度

表37は、「連続休暇希望日数」と「余暇の満足度」との関連を見たものである。「余暇の満足度」の区分は表21に同じである。

男子については、「連続休暇の希望」と「余暇の満足度」の間に有意な関連が見られた。余暇の満足度別に見ると、「満足」42.8%、以下「どちらでもない」29.3%、「不満」27.9%となっている。残差分析を行い、「余暇の満足度」に注目すると、「満足」は、「連続休暇の希望」について、「5日」が有意に多く、「20日以上」は有意に少なかった。「どちら

でもない」は「3日」「7日」が有意に多く、「10日」は有意に少なかった。「不満」は「10日」「20日以上」が有意に多く、「7日」「5日」及び「3日」は有意に少なかった。

ウ 余暇に対する不満

「余暇の満足度」に関して、「不満」「やや不満」と回答した男女職員に対して、どのような要因が結果に影響を及ぼしているかを明らかにするために、表22において余暇に対する不満の理由を構成している余暇ストレス項目及び本人の基本的属性を説明変数とし、表38の「余暇に不満な職員内訳」の全体の「不満」及び「やや不満」を目的変数として階層的重回帰分析を行った。調査対象者は表38に示すとおり、余暇の満足度（表21）において「不満」あるいは「やや不満である」を選択した485名（全体の31.3%）である。性

表37 連続休暇希望日数と余暇の満足度

性別	区分	連続休暇希望日					合計
		3日	5日	7日	10日	20日以上	
男子	満足	53 (44.5) [0.4]	102 (49.3) ▲[2.1]	179 (42.9) [0.1]	146 (41.0) [-0.8]	32 (33.0) ▼[-2.0]	512 (42.8)
	どちらでもない	46 (38.7) ▲[2.4]	64 (30.9) [0.6]	138 (33.1) ▲[2.1]	78 (21.9) ▼[-3.6]	24 (24.7) [-1.0]	350 (29.3)
	不満	20 (16.8) ▼[-2.8]	41 (19.8) ▼[-2.9]	100 (24.0) ▼[-2.2]	132 (37.1) ▲[4.6]	41 (42.3) ▲[3.3]	334 (27.9)
	合計	119 (100.0)	207 (100.0)	417 (100.0)	356 (100.0)	97 (100.0)	1,196 (100.0)
	女性	満足	20 (32.8)	23 (39.7)	26 (28.3)	36 (33.3)	14 (38.6)
どちらでもない	18 (29.5)	19 (32.8)	20 (21.7)	19 (17.6)	7 (19.4)	83 (23.4)	
不満	23 (37.0)	16 (27.6)	46 (50.0)	53 (49.1)	15 (41.7)	153 (43.1)	
合計	61 (100.0)	58 (100.0)	92 (100.0)	108 (100.0)	36 (100.0)	355 (100.0)	

$\chi^2(8)=47.989^{***}$

注1) ()内は構成比を示し、[]内は調整済み残差を示す。

注2) ***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

注3) 女子は、期待値算出にあたり、 χ^2 検定が不適当と判断された。

注4) 残差分析の結果、▲は期待値より有意に多く、▼は期待値より有意に少ないことを示す。(5%水準)

注5) 無回答は除く。

表38 余暇に不満な職員内訳

性別	区分	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	合計
男子	不満	26 (36.1)	23 (22.5)	25 (20.8)	6 (15.4)	80 (24.0)
	やや不満	46 (63.9)	79 (77.5)	95 (79.2)	33 (84.6)	253 (76.0)
	合計	72 (100.0)	102 (100.0)	120 (100.0)	39 (100.0)	333 (100.0)
女子	不満	15 (19.7)	10 (20.4)	5 (27.8)	1 (11.1)	31 20.4
	やや不満	61 (80.3)	39 (79.6)	13 (72.2)	8 (88.9)	121 (79.6)
	合計	76 (100.0)	49 (100.0)	18 (100.0)	9 (100.0)	152 (100.0)
全体	不満	41 (27.7)	33 (21.9)	30 (21.7)	7 (14.6)	111 (22.9)
	やや不満	107 (72.3)	118 (78.1)	108 (78.3)	41 (85.4)	374 (77.1)
	合計	148 (100.0)	151 (100.0)	138 (100.0)	48 (100.0)	485 (100.0)

注1) () 内は構成比を示す。

注2) 無回答は除く。

表39 余暇が不満であるに対する階層的重回帰分析

説明変数	ステップ1		ステップ2	
	標準偏回帰係数	偏相関係数	標準偏回帰係数	偏相関係数
平日の自由時間が少ない	0.027	0.026	0.049	0.047
休日が少ない	0.159***	0.152	0.137**	0.129
長期休暇が少ない	0.062	0.061	0.078	0.077
休暇、休日の予定が立てにくい	0.060	0.058	0.060	0.057
家事・育児に時間がかかる	0.070	0.068	0.131*	0.118
介護に時間がかかる	0.011	0.011	0.021	0.021
お金がかかりすぎる	0.025	1.024	0.035	0.034
近くに適当な施設がない	0.003	0.003	0.007	0.007
利用したい時間に施設が空いていない	-0.027	-0.027	-0.036	-0.036
家族などとの時間があわない	-0.024	-0.023	-0.007	-0.007
性別			-0.079	-0.066
年齢			-0.101	-0.082
同居あり			-0.099	-0.073
官舎あり			-0.045	-0.040
重相関係数 (R)	0.212		0.266	
F検定	2.244*		2.289**	

注) *は有意水準5%、**は有意水準1%、***は有意水準0.1%未満で有意差があることを示す。

別は「男性」を1, 「女性」を2とし, 同居については, 「なし」を1, 「あり」を2, 官舎についても同居と同様にカテゴリカルデータに変換した。年齢は調査時年齢をそのまま投入した。表39は, 「職場の不満足度」と同様の手続きを経て実施した階層的重回帰分析の結果である。ステップ1は, 余暇ストレス項目のみ投入したものであり, 「休日が少ない」は.159 ($p < .001$) で, 目的変数である「余暇の不満足度」に対して有意に影響を与えていることが分かる。ステップ2では, 「職場に対する不満」と同様にステップ1の説明変数に本人の属性までを含めて説明変数に投入した。結果としては, 「休日がすくない」は.137 ($p < .01$), 「家事育児に時間がかかる」が.131 ($p < .05$) の順で目的変数である「職場の不満足度」がそれぞれ影響を受けていることが分かる。重相関係数から, ステップ2の方が, モデルとしての適合性が高いことが明らかになった。

5 考察

(1) 性別・年齢群別から見た行刑施設職員の特徴

職業に関する意識調査について, 職業志向尺度からは, 「3 仕事仲間との人間関係がよいこと」「安定した勤め先であること」において男女職員共に約9割が「重要視」の回答をしていることから, 男女職員共に, 人間関係及び勤務条件を重視していることが分かる。

男子職員の企業帰属意識尺度における「4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い」「6 矯正の役に立つなら, 自分の私生活が犠牲になっても仕方がない」「9 せっかくここまで勤めたのだから, これから先も矯正の仕事が続けたい」の残差分析の結果から分かるように40歳以上の職員は, 組織のために働きたいという意欲

をより持っていることが分かる。大川(1997)の男子矯正職員についての勤務意識の調査から40歳を境として, 年齢とともに勤務意欲が高くなるという研究結果に一致する。男子職員の「4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ちが強い」「6 矯正の役に立つなら, 自分の私生活が犠牲になっても仕方がない」「7 たとえ現在よりもいい仕事や高い給料が与えられても, 矯正の仕事が好きなので, 他の仕事に移る気はない」について, 18~29歳は「肯定」を有意に少なく, 「否定」を有意に多く選択しており, 勤務意欲がより少ないと解釈できるが, その理由としては今回の調査内容が, 他の職員との比較や私生活を犠牲にするという内容が影響していると考えられる。

また, 企業帰属意識尺度から, 項目の内容を考慮すると女子職員の勤務意欲が高く, 更に男子職員はより強い勤務意欲及び職務の継続意志を保っているといえることができる。このことは, 職務定着に対する意識が, 男子が約8割であるのに対して, 女子が約6割であることに対応していることから理解できよう。

健康状態調査についてみると, 男子職員の結果からは, 50歳以上で「不健康」の回答が, また, 40歳未満で「健康」の回答がそれぞれ多いことが分かる。項目別に見ると「3 体力の衰えを感じる」「4 成人病(生活習慣病)に対して心配である」「5 運動不足である」について, 18~29歳においては「否定」が, 40歳以上においては「肯定」が, 有意にそれぞれ多くなっている。女子職員については, 選択された割合を年齢別に見ていくと, 年齢とともに「疲労感」「気になる症状」が増えていることが分かる。また, 女子職員は, 年齢が上がるにつれて, 家庭との両立や, 身体的な変化等, 男性職員とは異なった要因が付加される可能性も考えられる。

余暇に関する意識調査については, 男女間

で目的意識の差が挙げられる。男子職員の余暇に対しては「スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ」「家族、友人、知人との交流を楽しむ」等趣味や外向的な活動を志向するのに対して、女子職員は「家族、友人、知人との交流を楽しむ」「のんびり休養して鋭気を養う」と家庭的でのんびりしたものを志向する結果になっている。仕事と余暇の関係については、男女ともに両方が大事であると答える者が半数以上いるものの、余暇の満足度を見ると、男子の満足度が約4割、女子の満足度が約3割となっている。同居家族の割合を見ると、男子の50歳以上においては同居が多数を占めるものの、女子のそれでは同居なしが約4割を占めることから、家族形態の違いが余暇に影響を与えていると考えられる。

生活一般に関する意識調査では、男子職員での職場のクラブ活動参加に対して40歳を区切りとして、参加の可否がはっきり分かっている。これは住まいの形態が官舎であるか否かと同じ傾向であり、クラブ活動は普段接触することの多い官舎の住人の方が誘われやすいのであろうか。また、クラブ活動の中心は、運動部であることが多く、官舎に多くの割合が住んでいる若年職員の方が参加しやすいためと考えられる。官舎生活の満足度については、18～29歳において有意に低くなっており、また、40歳未満は全体として刑務官生活に不満を感じていることから、若い職員ほど、様々なストレスを抱えていると考えられる。女子職員については、30歳以上になると、6割以上が官舎外から通勤し、クラブ活動に参加していない割合が比較的多く、全体としての刑務官生活に対しては、「満足」とも「不満」でもない回答が多いことが分かる。このことは、職場や仕事以外では、同僚との付き合いは積極的に行わないという合理的な生活様式と捉えることができよう。

「現在の休日数」については、男女ともに

約6割が少ないと回答しており、「希望する連続休曜日数」については、男女とも年齢が低いほど、長い休暇を希望している。余暇に対する不満の理由については、休日の日数が足りないことが大きな原因となっていると推察される。

(2) 職業に関する意識

① 職業志向尺度

職業志向尺度は得点が高いほど、仕事の条件や期待が高いことから、言いかえると、それだけ職業内容に対しても関心が高いと捉えることができる。結果のとおり、40～49歳の職員は、職業の職務意識が高いことと関連があると考えられる。大川（1997）の研究は各施設の業務運営の中心である40歳代がかなりのストレスを感じている事を実証的に示しており、多忙な勤務状況に適応するために、職業志向尺度得点が高くなったと考えられる。男子職員の職業志向尺度得点が女子職員のそれよりも高くなったことについては、女子の年齢分布の半分以上が29歳未満であり、39歳までが8割以上を占めることとなっているため、男女間に差が出たと考えられる。また、女子職員については、50歳以上の職員で男子職員の得点よりも高くなっているが、女子職員の年齢分布から鑑みるに、女子職員の場合は途中で退職している例が多いと考えられ、50歳以上で勤務している女子職員は、より職務に対して忠実であるためと考えられる。つまり、職業志向得点の低い部分にあたる人がいなくなったと考えられ、その結果40歳代と50歳代の間において男女の得点が逆転したと推察できる。

② 企業帰属意識

40歳以上の職員において企業帰属意識得点が、有意に高くなっている。40歳以上といえ、勤務年数においては折り返し地点を超えたところであり、定年までの勤務年数が勤続年数よりも短くなってくる時期でもある。企業帰属意識尺度は、その内容として、職務に

対する積極的な意欲という観点に加え、所属する組織に従い、組織から得られるものがある限り、その組織にとどまっていたいという受動的な意識も含まれている。この点から、結果を概観すると、残された勤務年数が少なくなってくると、現在まで勤務したことに対する不協和を起ささないために、帰属している組織について従う傾向になると考えられる。

また、男子の方が女子に比べて、企業帰属意識得点が高い結果であった。これは29歳以下の女子職員については、企業帰属意識尺度において、否定的回答の割合が男子よりも多く見られたように、若年女子職員は、職場に対して、比較的帰属意識が希薄であるためと考えられる。

③ 職場の生活に対する不満の原因

表35の階層的重回帰分析の結果において、適合性の高いステップ2からは、職場に不満を感じている職員における不満の原因として5項目が有意に選択されたが、その内容について検討すると、「よい上司にめぐまれないから」という上司との対人関係、「仕事自体に生きがいがない」という仕事のやりがいや、また、「自分の能力が発揮できる場所がない」の不充足感、「現在の地位や仕事が気に入らないから」という漠然とした不満、「労働時間や休暇に不満があるから」という勤務条件であった。

内城（1981）は大阪刑務所（支所を含む）で副看守長以下の全職員に対して行った調査の中で、同じ質問を実施しているが、不満の理由として「労働時間や休暇に不満があるから（54.2%）」「職場の施設や設備が不十分だから（45.8%）」「収入が少ないから（26.7%）」の順となっており、今回の調査結果とはやや結果が異なっている。さらに、内城（1981）の調査では、「よい上司にめぐまれないから」を選択した者は18.2%であり、今回の調査は男女共に5割前後選択されている。この結果の理由としては、調査対象の差

があげられる。内城（1981）の調査は、18～29歳の職員が90%を占めているのに対して、今回調査では、表1にあるように18～29歳の職員は54.7%である。よって今回調査対象の約半分は、30歳以上である副看守長以下の職員であり、上司との年齢差が少ないか若しくは上司よりも年齢が高いこともあると推察される。

男子職員全体に行った意識調査（表12）の残差分析からは、50歳以上において「よい上司にめぐまれないから」が有意に多くなっている。このことから、自分とほぼ同じ年齢か年下である上司に対して、何らかの不満を抱いていると予想される。また、第一線の処遇現場では、上意下達の制度から、自分の意志で処遇を実施しているという実感を持ちにくいのではないかと解釈できる。このことは「仕事自体に生きがいがない」という仕事のやりがい、「自分の能力が発揮できる場所がない」という充足感を持っていないことにも同様のことが考えられる。また、職業志向尺度からは、男女職員共に人間関係、勤務条件を重視していることが示されたが、重視しているが故に、その点について不満を抱きやすいとも考えることができよう。「労働時間や休暇に不満があるから」という勤務条件については、余暇との関係で検討する。また、「現在の地位や仕事が気に入らないから」という漠然とした不満があることについては、今後詳細な検討が必要である。

(3) 余暇に関する意識

① 余暇を一緒に過ごす人・場所

表19から、男女ともに、「家族」「職場以外の友人」「自分ひとり」「職場の友人」の順で余暇を一緒に過ごしていることが分かる。29歳までは、余暇において職場以外の友人との交流が目立つが、年齢とともに家族と過ごす割合が多くなると考えられる。一方で、50歳以上の男子職員については、自分ひとりと回答する者が有意に多く、これは家族形態の変

化や単身赴任の影響が考えられよう。50歳以上の女子職員についても、同様のことが予想できる。

余暇を過ごす場所については、表20から男女ともに全体で見ると、「野外」「(自分の部屋以外の)屋内」「自分の部屋」の順となっている。男子職員で29歳以下が「自分の部屋」で過ごす者が有意に多く、女子職員でも39歳以下が比較的多くなっている。

余暇を過ごす人と場所の関連からは、29歳以下の若年職員は、家族以外の人と過ごすことが多く、男子は「自分の部屋」が有意に多く、女子は「屋外」が半数を占めることが分かった。余暇については、30歳以上の職員に見られるように、家族と過ごす割合が多いことから、家族との関係が余暇を過ごす際の大きな要因となっていると推察される。また、若者では自分の部屋で過ごす者が多く見られたが、インターネットの普及など各世代の時代背景からも余暇の過ごし方に変化があると考えられる。

② 希望する連続年休

現在の休日日数については、表23からも分かるように男女全体では、ともに約6割が「少ない」と感じている。また、表24からは、男女ともに半数が、「7～10日」を連続希望休暇日数として希望している。特に男子職員においては、39歳未満は連続年休10日を有意に希望しているが、50歳以上では5日未満が有意に多くなっている。この特徴は、現代的な社会人の特徴と捉えることができるのか、また、勤務年数や年齢的なものが大きく影響しているかは断定できないが、今後の調査を継続する余地がある。

表37からは、余暇に対して不満の人ほど希望する連続休暇日数は、多いことが分かる。

③ 余暇に対する不満の原因

表39の階層的重回帰分析の結果から、適合性の高いステップ2では、職場に不満を感じている職員における不満の原因として2項目

が有意に選択されている。その内容として、まず「休日が少ない」がある。不規則な勤務形態であるものの、原則として、週休2日制は実施されており、表面的には問題がないようにも考えられる。しかし、「休日が少ない」の意味としては、職員全体に対する職場における不満の原因調査(表12)からも、労働時間や休暇に対する不満が高まっていることが分かる。同じく職員全体についてであるが、表37から不満の原因は連続年休の取りづらさであると考えられる。被收容者がいる処遇現場においては、他の職員配置との関係もあり、年休が取りにくいのが現状であろう。制度としてはあるものの、その制度が十分に運用できていない点に余暇に対する不満があるのではないかと解釈できる。これは、職場の不满についての重回帰分析の結果から「労働時間や休暇に不満があるから」という勤務条件が選択されたことから理解できる。

「家事・育児に時間がかかる」については、表22から男女ともに「あてはまらない」が多く選択されているが、余暇に対して不満を感じている職員においては、有意に多く選択された結果となっている。この理由としては、質問項目の意味する範囲が広いため、多様な意味を持たせてしまった可能性が考えられる。

6 おわりに

職業に関する意識調査、健康状態調査、余暇に関する意識調査等については、全般的な目安として40歳を区切りとして、意識の志向性に差が見られることが示された。また、職業・余暇についても、職場における対人関係や休日数についてなどある程度具体的な問題点が明らかになっている。職員研修に関しては、集合研修、実務研修等において、各種様々な研修が行われているが、今回の結果を元にして研修内容・職務内容を吟味する必要があるかどうかを検討してはどうであろうか。困難

な矯正業務において、それぞれの年齢層の職員が、各職員の個性を十二分に発揮し、その場に合った柔軟な対応を取ることができるように本調査が還元できれば幸いである。

今回、調査実施に当たって、御協力を賜った法務省矯正局をはじめ矯正施設関係各位に対して、心から謝意を表します。

※ α 係数

cronbachの α 係数とも呼ばれ、信頼性係数のひとつであり、尺度内で内の一貫性を表している推定値である。尺度内すべての項目で同じ反応をすると α 係数は1となる。逆に、尺度内で他と違った反応があると、 α 係数は低下する。

引用文献

- 鈴木和正他 1992 北海道矯正 第29号 38-98
- 内城善雄 1981 職員(特に若手職員)の意識と研修について 矯正教育 32巻4号, 2-28
- 吉村勝正 1993 完全週休二日制 九州矯正 第47巻4号 47-53
- 若林満 後藤宗理 鹿内啓子 1983 職業レディネスと職業選択の構造 名古屋大学教育学部紀要, 30, 63-68
- 廣橋秀山 1978 行刑施設職員の勤務時間と余暇時間について 矯正教育 第29巻1号 13-21
- 廣橋秀山 濱井郁子 田島秀紀 松村猛 中勢直之 2000 高齢受刑者に関する研究(その1) 中央研究所紀要 第10号 11-37
- 森衍 矯正職員と余暇 1989 矯正広島 33巻1号 16-21
- 関本昌秀 花田光世 1987 企業帰属意識の構造化と影響要因の研究 産業・組織心理学研究, 1, 9-20
- 大川力 長谷川宜志 出口保行 久我洋二 中勢直之 大西美加 1997 矯正職員の勤務意識に関する研究(その1) 中央研究所紀要 第7号 15-32
- 総理府内閣総理大臣官房広報室 1992 余暇時間の活用と旅行に関する世論調査 20-23
- 総理府内閣総理大臣官房広報室 1999 余暇時間の活用と旅行に関する世論調査 26-29

(資料)

'00 I

整理番号

CARIC調査

矯正協会附属中央研究所

調査の目的とお願い

今回の調査は、矯正業務に関連して勤務環境の改善・矯正職員への支援等についてどのようなことが必要と考えられるかを調査・研究するものです。

このような目的をご理解のうえ、皆さんの生活と意識が正確に調査に反映するように協力お願いいたします。

なお、調査用紙には名前を書く必要はありませんし、セットになっている封筒に密封して提出していただきますので、あなたの回答は他の人には分かりません。また、調査結果は全体をまとめてコンピューターで統計的に処理しますので、皆さんがどのように答えたか個人的に問題になることはありません。

思ったまま、感じたままを回答していただくようお願いします。

調査票の答え方

次のページから始まる各事項に対して、右側の回答欄の「あてはまらない」から「あてはまる」までのうち、あなたの考えに近いものを1つ選んで、その数字のところに○を付けてください。

	回 答 欄				
	あ て は ま ら な い	あ ま り あ て は ま ら な い	ど ち ら で も な い	す こ し あ て は ま る	あ て は ま る
例えば、					
(質問) 私は映画を見るのが好きである。					⑤

「あてはまる」が一番あなたの考えに近いときは、ここに○をつけます。

次のページから質問に入ります。順番に答えてください。

下記の項目について、あてはまる数字を記入欄に記入してください。

	項 目	記 入 欄
問1	性別 (男性は1, 女性は2を記入してください。)	
問2	年齢 (30歳であれば30のように, 年齢を数字で記入してください。)	
問3	勤務年数 (矯正の仕事に就いてからの年数〔月数は切り捨て〕を記入してください。 例えば12年6ヶ月の人は12と記入する。また, 1年未満の人は0と記入してください。)	
問4	所属部門 (下記の内容から1つ選んで右の欄に数字を記入してください。) 1 総務関係(庶務・会計・用度) 2 処遇関係(処遇) 3 処遇関係(作業) 4 教育関係(教育・厚生) 5 分類関係(考査・審査・保護) 6 医務関係(保健・医療・看護) 7 その他	
	問4で「2 処遇関係(処遇)」を選択した人は「問5」へ, それ以外の人は「問7」へ移動してください。	
問5	主につく配置 (下記の内容から1つ選んで右の欄に数字を記入してください。) 1 昼夜勤勤務 2 日勤勤務	
	問5で「2 日勤勤務」を選択した人は「問6」へ, それ以外の人は「問7」へ移動してください。	
問6	日勤の内容 (下記の内容から1つ選んで右の欄に数字を記入してください。) 1 工場勤務 2 舎房(受刑区) 3 舎房(拘置区) 4 構外作業 5 内・外掃, 営繕 6 処遇事務(書信・面会・雑務等) 7 出廷 8 交代	
問7	階級 (下記の内容から1つ選んで右の欄に数字を記入してください。) 1 副看守長 2 看守部長(含む主任) 3 看守(含む主任)	
問8	同居家族 (下記の内容から1つ選んで右の欄に数字を記入してください。) 1 同居家族なし 2 妻(夫)のみ 3 妻(夫)と子 4 子のみ 5 妻(夫)と子およびその他の家族 6 その他	

*** 次のページに進んでください。***

問9

あなたは、仕事に関して次の1～6の事項についてどのくらい重視していますか。それぞれについて、右側の回答欄の「重要でない」から「重要である」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選んで、その数字に○をつけてください。

	回 答 欄				
	重要でない	あまり重要でない	どちらとも言えない	少し重要である	重要である
1 仕事を通して社会の役に立つこと	1	2	3	4	5
2 待遇や報酬が実力本位・能力本位であること	1	2	3	4	5
3 仕事仲間との人間関係がよいこと	1	2	3	4	5
4 上司との人間関係がよいこと	1	2	3	4	5
5 安定した勤め先であること	1	2	3	4	5
6 勤め先について世間で評判がよいこと	1	2	3	4	5

問10

次の1～12までの文章を読んで、それぞれについて右側の回答欄の「あてはまらない」から「あてはまる」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選んで、その数字に○をつけてください。

	回 答 欄				
	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらとも言えない	少しあてはまる	あてはまる
1 職場の雰囲気は自分の価値観や考え方によく合っている	1	2	3	4	5
2 矯正の理念を抵抗なく受け入れることができる	1	2	3	4	5
3 幹部の考え方や運営方針には共鳴できるものが多い	1	2	3	4	5
4 他の職員よりもはるかに矯正のために尽くそうという気持ち強い	1	2	3	4	5
5 矯正を発展させるためならば、人並み以上の努力をすることをいとわない	1	2	3	4	5
6 矯正の役に立つなら、自分の私生活が犠牲になっても仕方がない	1	2	3	4	5
7 たとえ現在よりもいい仕事や高い給料が与えられても、矯正の仕事が好きなので、他の仕事に移る気はない	1	2	3	4	5
8 たとえこの先、自分の望んでいる部門（希望する仕事）を歩むことができなくても、矯正の職場で働いていたい	1	2	3	4	5
9 せっかくなここまで勤めたのだから、これから先も矯正の仕事を続けたい	1	2	3	4	5
10 自分の貢献に見合った待遇を受けていなければ、働く意欲はわいてこない	1	2	3	4	5
11 今の職場で自分にとってやりがいのある仕事を担当させてもらえないなら、ここにいてもあまり意味がない	1	2	3	4	5
12 今の仕事から得るものがあるうちは、矯正の仕事を続けたい	1	2	3	4	5

*** 次のページに進んでください。***

問11

矯正の仕事を今後もずっと続けて働きたいと思えますか。下の事項のうち「どうしても変わりたい」から「ずっと続けたい」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 どうしても変わりたい
- 2 機会があったら変わりたい
- 3 どちらともいえない
- 4 変わりたいと思うことはあるが、このまま続けることになろう
- 5 ずっと続けたい

回 答 欄

問12

職場生活の満足度について、下の事項のうち「不満」から「満足」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 不満
- 2 やや不満
- 3 どちらでもない
- 4 やや満足
- 5 満足

回 答 欄

問12で「1 不満」、「2 やや不満」と答えた人はそのまま「問13」に移動してください。
それ以外の答えの人は「問14」へ移動してください。

*** 次のページに進んでください。***

問13

問12で「不満」と「やや不満」と答えた人に質問します。職場に不満があるとすれば、次のうちのどれにあてはまりますか。あてはまるすべての番号を右の回答欄の中で○をつけて下さい。あてはまるものが1から11まででない場合は、12その他を選んで、かっこの中にその理由を書いてください。(複数回答可)

- 1 仕事自体に生きがいがないから
- 2 収入が少ないから
- 3 現在の地位や仕事が気に入らないから
- 4 職場の安定性がないから
- 5 よい上司に恵まれないから
- 6 よい同僚に恵まれないから
- 7 職場の施設や設備が不十分だから
- 8 自分の能力を発揮する場がないから
- 9 労働時間や休暇に不満があるから
- 10 昇級や昇進が学歴・研修歴によって決まってしまうから
- 11 被収容者に問題が多いから
- 12 その他 ()

回 答 欄

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12

問14

あなたの体調について、下の事項の「健康でない」から「健康」までのうち、自分にあてはまる答えの番号を1つ選んで、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 健康でない
- 2 あまり健康でない
- 3 どちらでもない
- 4 やや健康
- 5 健康

回 答 欄

--

*** 次のページに進んでください。***

問15	回 答 欄				
	あてはまらない	あまりあてはまらない	たぶんあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
1 肉体的な疲労を感じる	1	2	3	4	5
2 精神的な疲労・ストレスを感じる	1	2	3	4	5
3 体力の衰えを感じる	1	2	3	4	5
4 成人病（生活習慣病）に対して心配である	1	2	3	4	5
5 運動不足である	1	2	3	4	5
6 肥満である	1	2	3	4	5

問16

現在かかっている病気や気になる症状がありますか。下の事項の「はい」か「いいえ」のうち、自分にあてはまる答えの番号を1つ選んで、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 はい
- 2 いいえ

回 答 欄

問16で「1 はい」と答えた人は「問17」に移動してください。
 「2 いいえ」と答えた人は「問18」へ移動してください。

問17

問16で「はい」と答えた人に質問します。現在かかっている病気すべてに○をつけてください。あてはまるものがない場合は、その他に○をつけてかっこの中に病名を書いてください。

- 高血圧, 低血圧, 肥満, やせすぎ, 脳卒中, 心筋梗塞, その他の心臓病,
 胃・十二指腸潰瘍, 慢性胃炎, 慢性気管支炎, 肝臓病, 糖尿病, 結核, 腰痛,
 貧血, 神経痛, 精神科疾患, 婦人科疾患, 眼科疾患, 耳鼻咽喉科疾患,
 泌尿器系疾患, 痔疾, 通風, 風邪, リュウマチ,
 その他 ()

*** 次のページに進んでください。***

問18

あなたにとって余暇活動の最も大きな目的は何でしょうか。下にある事項のうち、自分にあてはまる番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 のんびり休養して鋭気を養う
- 2 家族、友人、知人との交流を楽しむ
- 3 自然に親しむ
- 4 知識や教養を高める
- 5 スポーツ・読書・趣味などによって自由時間を楽しむ
- 6 仕事に役立つ能力開発のための学習を行う
- 7 地域・社会的活動やボランティア活動を行う

回 答 欄

問19

あなたは、仕事と余暇の関係についてどのように考えていますか。下の事項のうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 余暇を楽しむことが最も大切である
- 2 できるだけ余暇を楽しむ
- 3 仕事も余暇も両方大切である
- 4 できる限り仕事の方に力を注ぐ
- 5 仕事が最も大切である

回 答 欄

問20

あなたは、余暇を誰と過ごすことが多いですか。下の事項の「自分独り」から「職場以外の友人」までのうち、自分にあてはまる番号を1つ選び右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 自分独り
- 2 家族
- 3 職場の友人
- 4 職場以外の友人

回 答 欄

*** 次のページに進んでください。***

問21

あなたは、余暇をどこで過ごすことが多いですか。下の事項の「自分の部屋」から「屋外」までのうち、自分にあてはまる番号を1つ選び右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 自分の部屋
- 2 (自分の部屋以外の)屋内
- 3 屋外

回 答 欄

問22

あなたの余暇活動について質問します。下の事項の「不満」から「満足」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選び右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 不満
- 2 やや不満
- 3 どちらでもない
- 4 やや満足
- 5 満足

回 答 欄

問22で「1 不満」、「2 やや不満」と答えた人は「問23」に、それ以外の人は「問24」へ移動してください。

問23

問22で「不満」「やや不満」と回答した人に質問します。下にある事項のうち、あてはまるものすべての番号を選び、右の回答欄の中の数字に○を付けてください。（複数回答可）

- 1 平日の自由時間が少ない
- 2 休日が少ない
- 3 長期休暇がない
- 4 休暇、休日の予定が立てにくい
- 5 家事・育児に時間がかかる
- 6 介護に時間がかかる
- 7 お金がかかりすぎる
- 8 近くに適当な施設がない
- 9 利用したい時間に施設が空いていない
- 10 家族などとの時間帯があわない

回 答 欄

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10		

*** 次のページに進んでください。***

問24

あなたは現在の休日の日数についてどのように考えていますか。下の事項の「少ない」から「多い」までのうち、あなたの考え方に近い番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 少ない
- 2 やや少ない
- 3 現在の程度でよい
- 4 やや多い
- 5 多い

回 答 欄

問25

あなたの希望として、連続して何日休暇が欲しいですか。下の事項の「3日」から「20日以上」のうち、あなたの考え方に近い番号（1～5）を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 3日
- 2 5日
- 3 7日
- 4 10日
- 5 20日以上

回 答 欄

問26

職場内での余暇活動（クラブ・文化活動等）について質問します。下の事項の1から5までのうち、あなたにあてはまる数字を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 まったく参加していない
- 2 あまり参加していない
- 3 ときどき参加している
- 4 いつも参加している
- 5 職場にクラブ活動がない

回 答 欄

*** 次のページに進んでください。***

回 答 欄

問27

次の1と2の事項について、右側の回答欄の「とても不満」から「大いに満足」までのうち、あなたの考えにあてはまる答えの番号を1つ選んで、その番号に○をつけてください。

とても不満 不満 どちらともいえない 満足 大いに満足

- | | | | | | | |
|---|---------------------|---|---|---|---|---|
| 1 | 全体として刑務官の生活に満足しているか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 研修の内容・制度について満足しているか | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問28

現在の住まいの形態について、自分にあてはまる答えの番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

回 答 欄

- 1 官舎
- 2 官舎以外

問28で「1官舎」と答えた人は「問29」に移動してください。
それ以外の人は「問30」へ移動してください。

問29

問28で「官舎」と答えた人に質問します。官舎生活に満足しているかどうかについて、自分にあてはまる答えの番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

回 答 欄

- 1 とても不満
- 2 不満
- 3 どちらともいえない
- 4 満足
- 5 大いに満足

*** 次のページに進んでください。***

問30

単身赴任（ただし泊込作業場での勤務や他施設への長期警備応援は含まない）について、自分にあてはまる答えの番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 したことがある
- 2 したことがない

回 答 欄

問31

単身赴任についてどのように考えていますか。下の事項の「したくない」から「してもいい」のうち、自分の考えにあてはまる答えの番号を1つ選び、右の回答欄に数字を記入してください。

- 1 したくない
- 2 できればしたくない
- 3 どちらでもない
- 4 場合によってはしてもいい
- 5 してもいい

回 答 欄

*** これでおわりです。***

*** つけ忘れがないか、もう一度1枚目から見直してください。***

*** ご協力ありがとうございました。***